WT シリーズ据付説明書

RTC012A105
202608

適用機種：WTP254H(K)(U)(F)、WTP364H(K)(U)(F)

安全上のご注意

●ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

⚠警告	誤った取り扱いをしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性が大きいもの。
⚠注意	誤った取り扱いをしたときに、傷害を負う可能性、または物的損害の可能性があるもの。状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。

●本文中に使われる「絵表示」の意味は次の通りです。

⃠	絶対にしないでください。	❗	必ず指示どおりに行ってください。
⏚	アース（接地）を確実に行う。		

●据付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに取扱説明書にそって「安全上のご注意」や正しい使用方法、お手入れの仕方をご指導ください。
●据付説明書は取扱説明書と共に、お客様で保管していただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わられる場合は、新しくお使いになる方に、据付説明書と取扱説明書をお渡しくださるよう依頼してください。

⚠警告

●据付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。
ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。

●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。
据付けに不備があると破裂･ケガの原因となり、また水漏れや感電･火災などの原因になります。

●小部屋に据付ける場合は万一冷媒が漏れても、限界濃度を超えない対策をする。(JRA GL-13)
限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据付ける。万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。

●設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。
当社指定の部品を使用しないと、ユニット落下、水漏れ、火災、感電などの原因になります。

●作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。
冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。

●据付けは、重量に十分耐える所に確実に行う。
強度が不足している場合は、ユニットの落下などにより、ケガの原因になります。

●ユニットを搬入する際、重量に適合したロープをユニットの所定位置に掛けて行う。また横ズレしないよう固定し、確実に4点支持で実施する。
3点支持など搬入方法に不備があるとユニットが落下し、死亡や重傷の原因になります。

●台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行う。
据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。

●エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒(R410A)以外の空気などを入れない。
空気などが混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。

●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。

●配線は所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないよう固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。

●据付工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。
冷媒が室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。

●冷媒用配管、フレアナット、工具は R410A 専用のものを使用する。
既存(R22)部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。

●据付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。
ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。

●フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締付ける。
フレアナットの締付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。

●ドレン配管はイオウ系ガス等有毒ガスの発生する排水溝に直接入れない。
室内に有毒ガスが侵入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また、室内機を腐食させ、故障や冷媒漏れの原因になります。

●オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取り付けは専門業者に依頼する。
ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。

●改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。
修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。

●エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。
据付けに不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。

●ユニットの修理･点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ずOFF する。
点検･修理にあたって、電源ブレーカがONのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。

●パネルやガードを外した状態で運転しない。
機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。

●元電源を切った後に電気工事を行う。
感電、故障や動作不良の原因になります。

●身体面、精神面で健康を害されている方、並びにお子様は安全責任者による指導を受けた保護者様と一緒に使用してください。

●お子様が遊ぶことがないように管理してください。

⚠注意

●アース(接地)を確実に行う。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース(接地)が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。

●冷媒配管工事終了後は窒素ガスによる気密試験を行い、漏れのないことを確認してください。
万一、狭い部屋に冷媒ガスが漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になることがあります。

●漏電遮断器は必ず取り付ける。
漏電遮断器が取り付けられていないと感電や火災の原因になることがあります。

●正しい容量の全極遮断するブレーカ(漏電遮断器･手元開閉器(開閉器＋B種ヒューズ)･配線遮断器)を使用する。
不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●正しい容量のヒューズ以外は使用しない。
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない。
万一ガスがユニットの周囲に溜ると、発火の原因になることがあります。

●腐食性ガス(亜硫酸ガスなど)、可燃性ガス(シンナー、ガソリンなど)の発生、滞留の可能性のある所、揮発性引火物を取扱う所での据付け、使用は行わない。
熱交の腐食、プラスチック部品の破損などの原因になることがあります。また可燃性ガスは発火の原因になることがあります。

●工事、点検、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保してください。
スペースが不足する場合は、設置場所からの転落によるケガの原因になることがあります。

●洗濯室など、水の掛かる所では使用しない。
ユニットは水の浸入に対する保護はしておりません。水が掛かると感電、火災などの原因になることがあります。

●食品・動植物・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しない。
保存物の品質低下などの原因になることがあります。

●病院、通信事業所などの電磁波を発生する機器、高周波の発生する機器の近くでは据付け、使用しない。
インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤作動や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音など弊害の原因になることがあります。

●直射日光の当たる所にリモコンを設置しない。
リモコンの故障や変形の原因になることがあります。

●次の場所への据付けは避ける。
・カーボン繊維や金属粉、パウダー等が浮遊する所
・硫黄系ガス、塩素系ガス、酸、アルカリ等の機器に影響する物質の発生する所
・車両、船舶等移動するものへの設置
・化粧品、特殊なスプレーを頻繁に使用する所
・油の飛沫や蒸気が多い所（調理場、機械工場等）
・高周波を発生する機械を使用する所
・海浜地区等塩分の多い所
・積雪の多い所
・煙突の煙がかかる所
・標高1000m以上の所
・アンモニアの雰囲気にさらされる所
・他の熱源から熱放射を受ける所
・通風の悪い所
・吸込口、吹出口に風の障害物がある所
・複数台設置の場合に、ショートサーキットがおきるような所
性能を著しく低下させたり、部品が腐食、破損したりする原因になることがあります。

●次の場所への据付けは避ける。
・騒音や熱風が隣家に迷惑をかけるような所
・吹出し風が動植物に直接あたる場所
・強度が不十分で振動が増幅、伝達しやすい所
・機器から発生する騒音、振動の影響を受けやすい所（寝室の壁やその近傍）
・高周波に影響される機器のある所（TVおよびラジオ等の近傍）
・ドレンの排水がとれない所
・強風の影響をうけやすい所（室外機に直接強風が吹込む所）
周辺の環境に影響をおよぼしクレームの原因になることがあります。

●エアコンの下部には、濡れて困るものは置かない。
湿度が80%以上の時や、ドレン排水が詰まった場合に、ユニットから露が滴下し損害が生じることがあります。

●長期使用で傷んだままの据付台を使用しない。
傷んだ状態で放置するとユニットの落下につながり、ケガなどの原因になることがあります。

●ユニット近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、ユニット内へのスパッタの進入を防止する。
溶接作業時などに発生するスパッタがユニットにあたった場合、ドレンパンなどに損傷（ピンホール）をあたえ、水漏れなどの原因になることがあります。ユニット内へのスパッタの進入を防ぐため梱包状態のままとしておくか、覆いなどにより必ずカバーをしてください。

●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管する。
不確実な場合、屋内に浸水し、家財などを濡らす原因になることがあります。

●ドレン配管は下り勾配（1/100 以上）とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。

●ユニットは、小動物のすみかにしない。
小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙・発火の原因になることがあります。
小動物が侵入しないよう防鳥網を設置してください。

●製品の運搬は十分注意して行う。
20kg以上の製品は原則として2人以上で行ってください。
素手でフィンなどに触れるとケガをする場合がありますので保護具をご使用ください。

●梱包材の処理は確実に行う。
梱包材にクギなどの金属あるいは、木片などを使用していますので放置状態にしますとケガをすることがあります。

●フィルタをはずしたまま運転しない。
内部に油・ゴミなどが詰まり、故障の原因になることがあります。

●濡れた手でスイッチを操作しない。
感電の原因になることがあります。

●運転中の冷媒配管を素手で触れない。
運転中の冷媒配管は流れる冷媒の状態により低温と高温になります。素手で触れると凍傷や、やけどになることがあります。

●エアコンを水洗いしない。
感電の原因になることがあります。

●運転停止後、すぐに電源を切らない。
必ず5分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。

●電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

●ユニットの上に物を置いて運転を行わない。
落下物により物が破損したり、ケガの原因となります。

●ユニットの上に乗らない。
落下、転倒などによりケガの原因となります。

冷媒R410A対応機としての注意点

●R410A以外の冷媒は使用しないでください。R410Aは従来の冷媒に比べ圧力が 1.6 倍高くなります。R410Aはボンベ上部に桃色表示があります。
●R410A機は、他冷媒の誤封入防止のため室外ユニット操作弁のチャージポート径とユニット内のチェックジョイント径を変更しています。又、耐圧強度を上げるため冷媒配管のフレア加工寸法及びフレアナットの対辺寸法を変更しています。従って、施工・サービス時には、右表に示すR410A専用ツールを準備してください。
●異種油の混入を避けるために、冷媒の種類により工具を使い分けてください。
特にゲージマニホールド、チャージホースは絶対に他冷媒（R22、R407C 等）と共用しないでください。
●チャージシリンダは使用しないでください。チャージシリンダを使用すると冷媒の組成が変化し、能力不足等の原因になります。
●冷媒封入は必ずボンベから液相で取り出して行ってください。

	R410A 専用ツール
a)	ゲージマニホールド
b)	チャージホース
c)	冷媒充填用電子はかり
d)	トルクレンチ
e)	フレアツール
f)	出し代調整用銅管ゲージ
g)	真空ポンプアダプター
h)	ガス漏れ検知器

フロンの見える化

フロン排出抑制法 第一種特定製品
1) フロン類をみだりに大気中に放出することは禁じられています。
2) この製品を廃棄・整備する場合には、フロン類の回収が必要です。
3) フロン類の数量は室外機の銘板に記載されています。
4) フロン類の種類及び地球温暖化係数

種類	冷媒番号	地球温暖化係数
HFC	R410A	2090

お願い
●取扱説明書を見ながら、お客様に実際に操作していただき、正しい運転のしかた（特にエアフィルタの清掃、運転操作のしかた、温度調節の方法）を説明してください。
●長期間使用しない場合は、電源スイッチを切るようにお客様にご指導ください。
●エアコンを使用する 6 時間前に電源スイッチを入れるようにお客様にご指導ください。

1. 据付場所の選定

下記条件に注意し、据付場所を選んでください。
○ユニットの重量・振動に耐え、水平に据付けられる安全な所
○運転音や温風で隣家に迷惑のかからない所
○可燃性ガスの漏れる恐れのない所
○他の熱源から熱輻射を受けない所
○テレビやラジオの周囲から5m以上離れた所（電波障害を受ける場合は、さらに離してください。）
○通風が充分に確保でき、保守点検を安全に行えるサービススペースを確保できる所
○硫黄系ガス、塩素系ガス、酸、アルカリ（アンモニアを含む）など、機器に影響する物質の発生・滞留しない所
○油煙が発生しない所
○ドレン水が流れてもよい所
○積雪で埋まらない所
○電磁波、高調波を発生する機械がない所

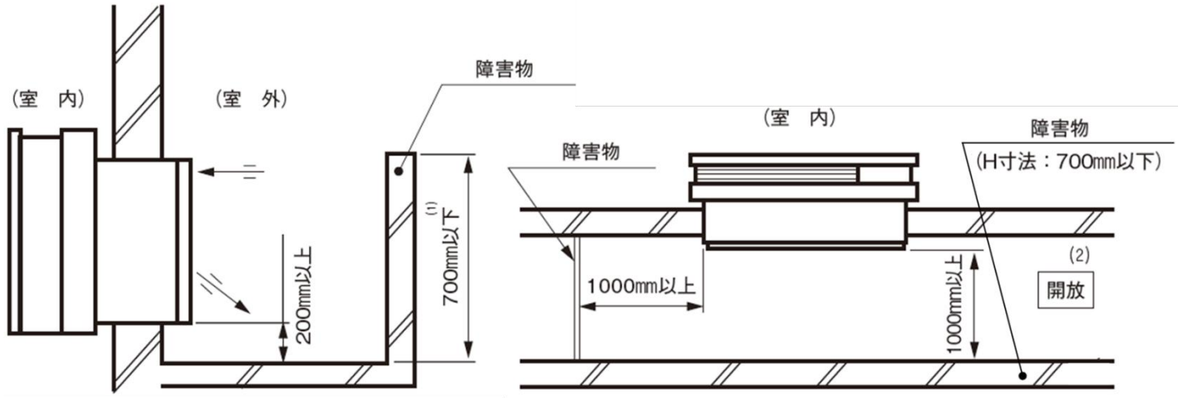
さらに下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
●冷風または温風が十分行きわたる所
●ドレン排水が完全にできる所、ドレン勾配のとれる所
●直射日光の当たらない場所
●吸込口、吹出口に風の障害のない所
●周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80%以下の所
●加湿器の給水配管ができる所
●侵入外気の影響のない所
●油、粉、蒸気などを直接吸込まない所
●火災報知器の誤動作しない所
●ショートサーキットが生じない所
●床が水平で強固であること（床が弱いとユニットの振動が伝わり、異常振動・騒音の原因となります。）

2. 据付関連事項

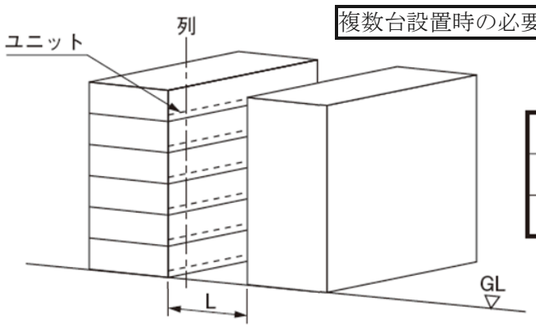
(1) 据付スペース(適用機種:WT, WT-U)

室内側・室外側でショートサーキット等を防止するため下図のスペースを確保してください。
(スペースが確保できない場合は, 計画時に弊社にお問い合せください)

(a) 室外側



注(1) 手すり、金網等の通風の障害とならない構造物の高さは含みません。
注(2) ユニットを併設する場合は 3m 以上としてください。

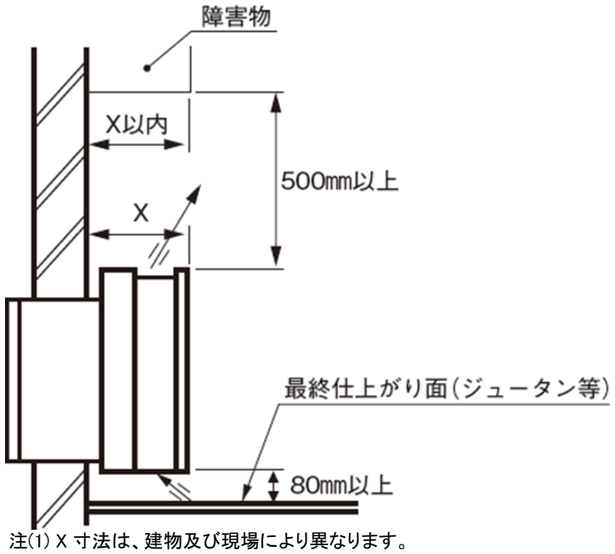


複数台設置時の必要隣接距離

列	L(隣接距離)
4列以下	3 m 以 上
5列以上	5 m 以 上

注(1) 建物は 10 階以下でベランダ無しとします。ユニットは 10 列以下とします。

(b) 室内側

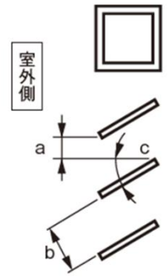


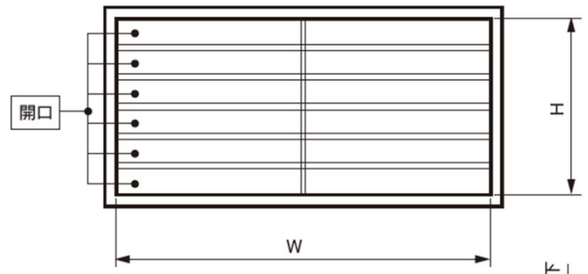
注(1) X 寸法は、建物及び現場により異なります。

(2) (室外側)ガラリの選定基準(適用機種:WT-U)

ウォールスルータイプ(窓サッシ形)でガラリを現地で製作される場合は、風量確保・ショートサーキット防止のため形状及び抵抗値を下記の範囲内になるようにしてください。

(a) ガラリの抵抗値(P25 タイプは 30Pa, P36 タイプは 50Pa 以下としてください。



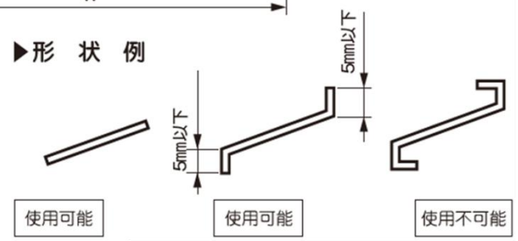


▶自由面積比= $\frac{b \times W \times n}{W \times H} \geqq 0.6$
(開口率)

▶投影開口率= $\frac{a \times W \times n}{W \times H} \geqq 0$

▶ガラリ角度= C
吹出部 30°以下
吸込部 30°以下

▶形 状 例



注(1) n は開口部の数を示します。

(3) 据付工事手順

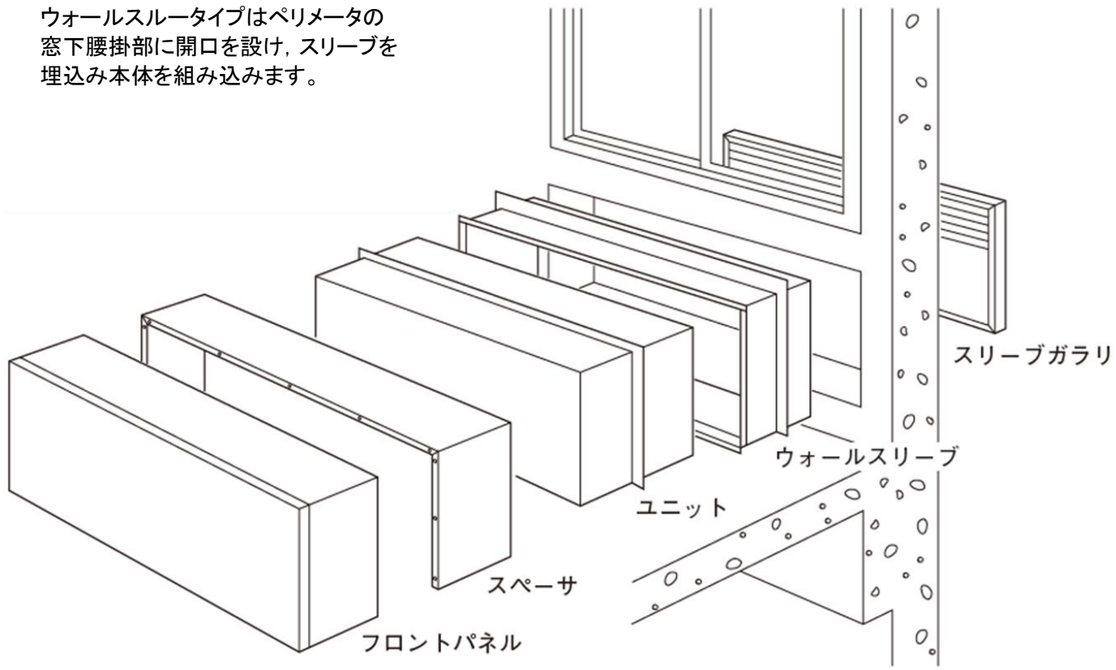
(a) ウォールスルータイプ(壁埋込形)

(ⅰ) 据付・配線工事

① **ユニット**:WTP254HK, 364HK, 254H, 364H, 254HKF, 364HKF, 254HF, 364HF
② **オプション部品**:フロントパネル、ウォールスリーブ、スリーブガラリ
③ **客先手配**:スペーサ

(ⅱ)据付の概要

ウォールスルータイプはペリメータの窓下腰掛部に開口を設け, スリーブを埋込み本体を組み込みます。

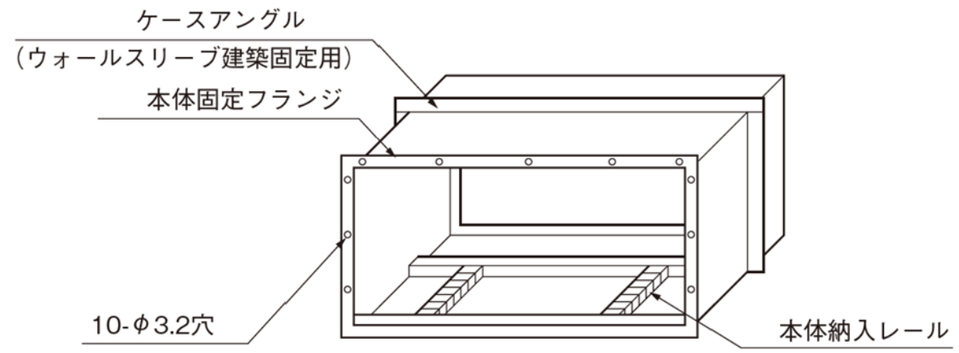


（iii）据付・配線工事

① ウォールスリーブの取付け

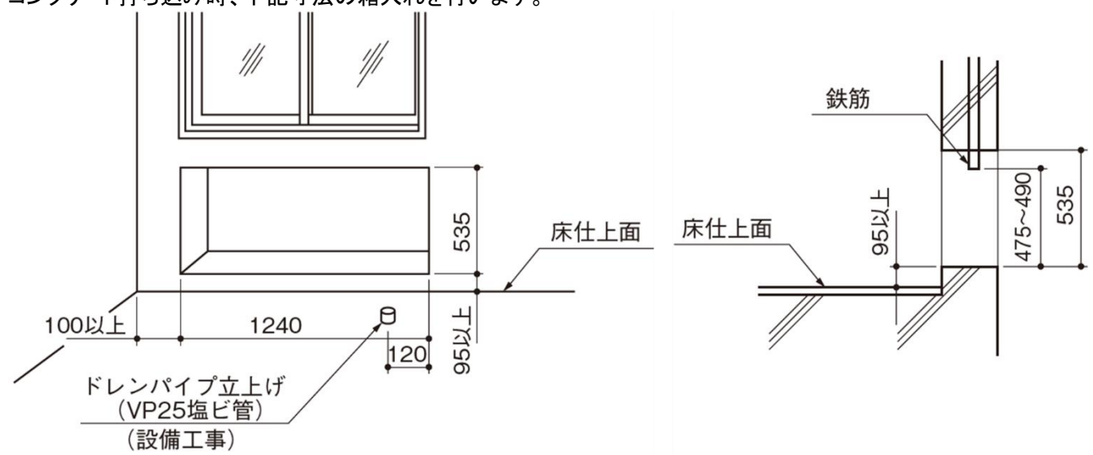
ウォールスリーブは弊社のオプション部品を使用し木枠等による施工は絶対行わないでください。

ⓐ ウォールスリーブ（ドレン前抜き用）



ⓑ 箱入れ

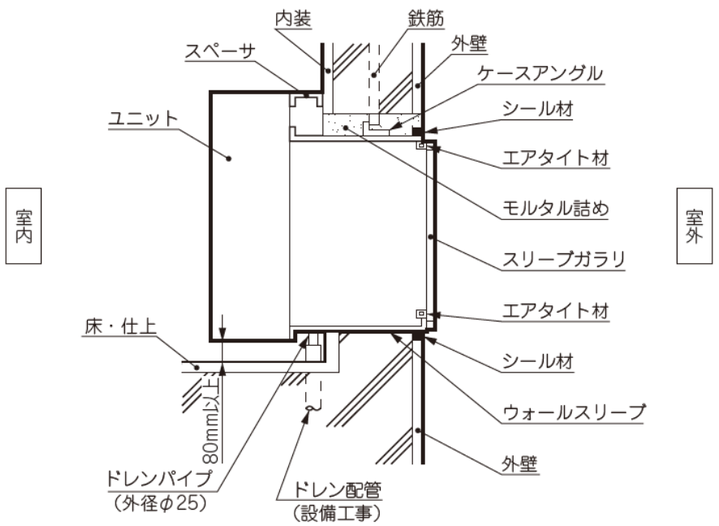
コンクリート打ち込み時、下記寸法の箱入れを行います。



ⓒ ウォールスリーブの固定

型枠を取外した後、ウォールスリーブを室内より押し込み、スリーブのケースアングルと鉄筋を溶接し、確実に構造体に固定します。この場合、ウォールスリーブは、水平又は室外側に向け0～1度下傾斜（ドレン室内取りの場合）にて取付けてください。（前後，左右の水平も確認してください。）

ウォールスリーブを外壁に合わせる



ⓓ シール

ウォールスリーブと壁の間をモルタルで埋め、外壁側（ウォールスリーブの周囲）に良質シール材を埋込み完全に雨水シールしてください。（ⓒの図をご覧ください。）

シール材……良質シーラント，コーキング等
（チオコール系シーラント，ポリサルファイド系シーラント等）

寸　法……H10×D10（mm）

ご注意

本体納入時までにウォールスリーブより室内側へ風雨の侵入があってはならない場合はふさぎ板（現場手配、鉄板及びビニール等のテープ貼りでも良い。）で雨仕舞してください。

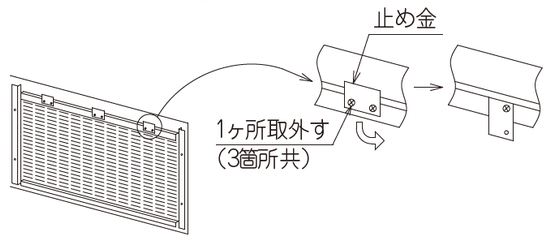
② スリーブガラリの取付け

ⓐ 取付前に

①スリーブガラリの止め金のビス（1箇所）を取外して止め金を90度回転させてください。（3箇所共）

②ワイヤー（付属品）を利用し、スリーブガラリの落下を防止してください。

（スリーブガラリ取付後、ワイヤーを取外してください。）



ⓑ 仮止め

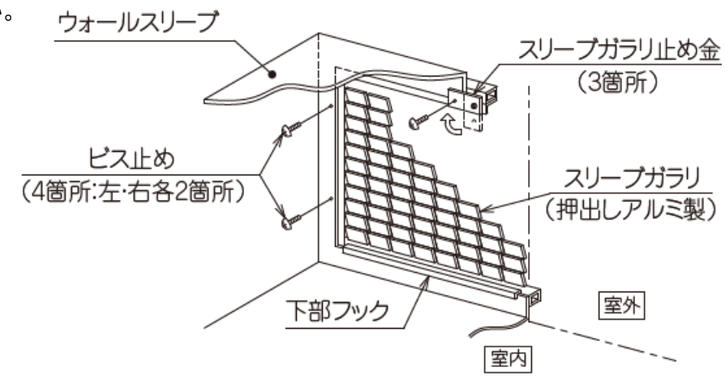
室内側よりスリーブガラリを一旦ウォールスリーブを通して、室外へ出し、その後、ウォールスリーブ外壁側にスリーブガラリをあてます。

1．スリーブガラリを室内より入れる。　　2．外壁側にスリーブガラリをあてる。

ⓒ 取付け

①スリーブガラリ下部フックをウォールスリーブに引っ掛けてスリーブガラリを取付けてください。

②スリーブガラリ取付けは、左右4箇所をビス（付属品）止め後、止め金を元の位置に戻して、取外したビスで固定してください。

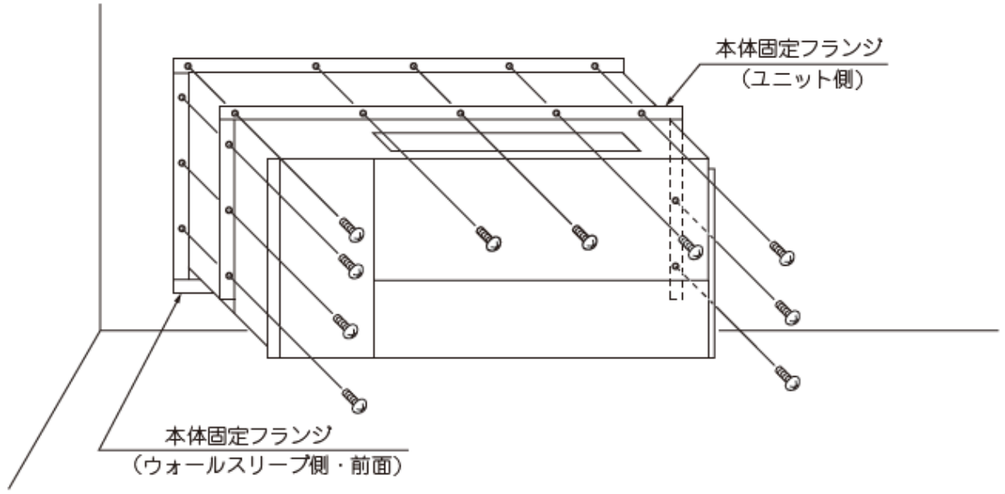


RTC012A105

③ 本体・フロントパネルの取付け

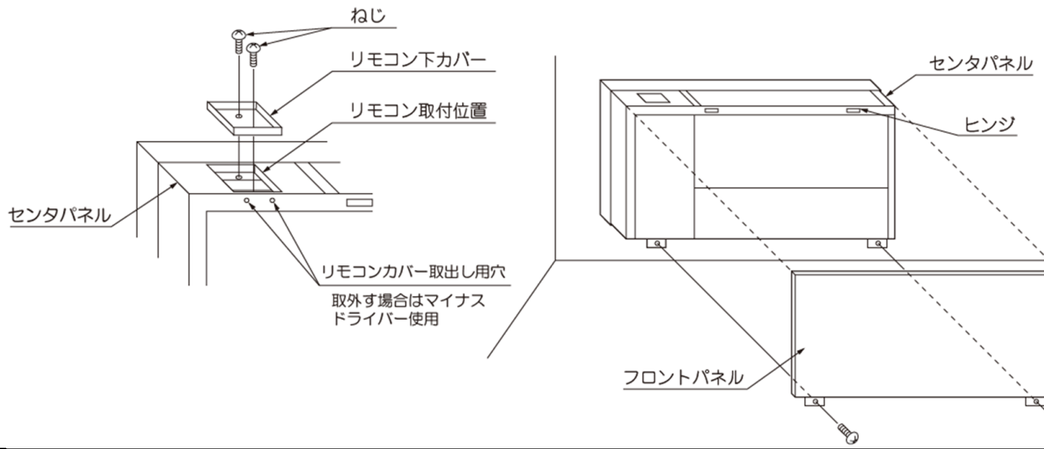
ⓐ 本体の取付け

本体を前方よりウォールスリーブに押し込み，ウォールスリーブに確実にねじ止めします。
（上部5箇所，左3箇所，右2箇所）



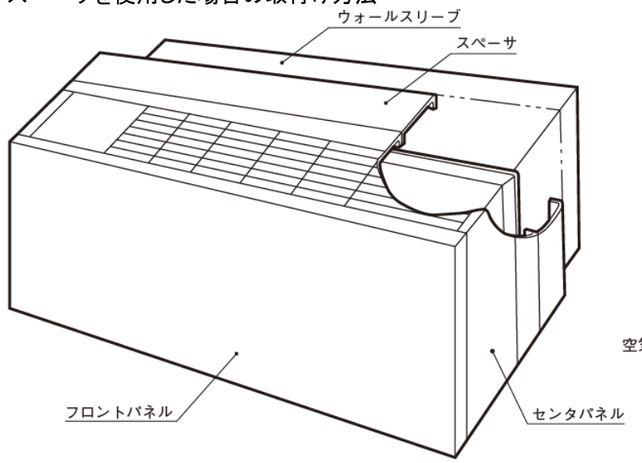
ⓑ フロントパネルの取付け

フロントパネルは下図のようにセンタパネル、フロントパネルの順で本体に取付けてください。
1. リモコンをセンタパネルに設置する場合は、前もってリモコンを取付けておいてください。
2. センタパネルを本体上方からはめ込み前方から本体にねじ止めします。（左・右各 3 本）
3. 次にフロントパネルをセンタパネルのヒンジに引掛け前方からセンタパネルにねじ止めします。（左・右各1本）

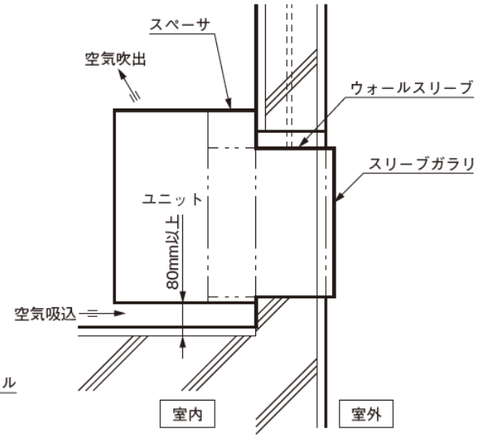


ⓒ スペーサ併用

スペーサを使用した場合の取付け方法

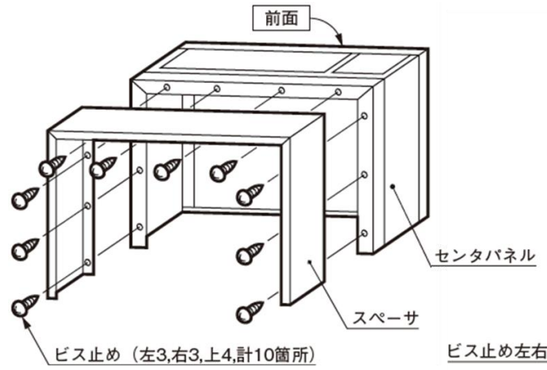


外観図

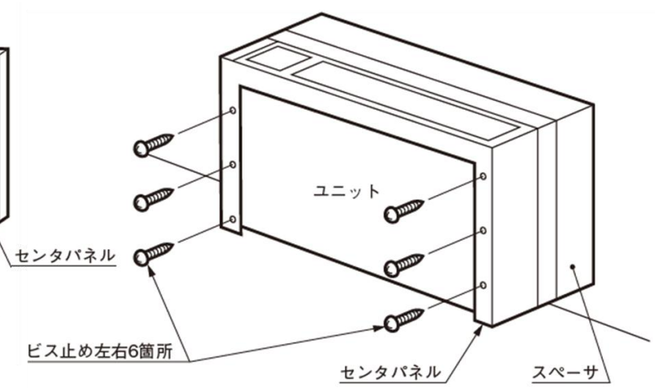


断面図

1. センタパネルとスペーサの一体化



2. フロントパネルの取付け



スペーサをセンタパネル後方へビス止めし、センタパネルと一体化させます。

(b) ウォールスルータイプ（窓サッシ形）

（ｉ）ユニット・部品

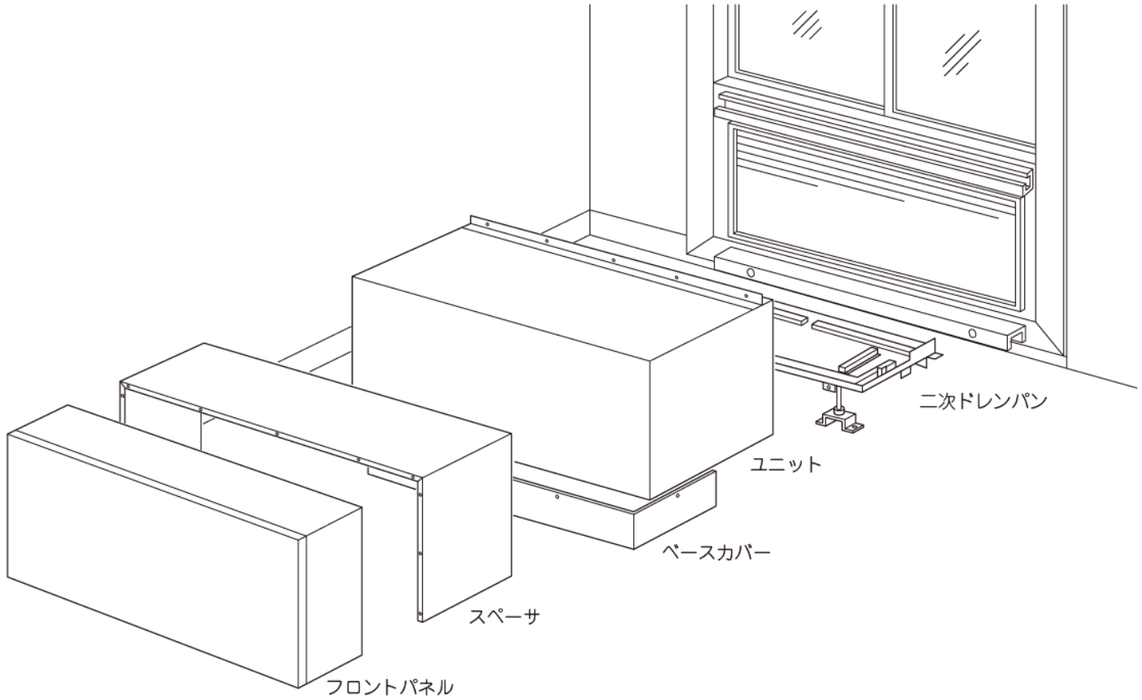
① **ユニット**：WTP254HKU, 364HKU, 254HU, 364HU, 254HKUF, 364HKUF, 254HUF, 364HUF

② **オプション部品**：フロントパネル

③ **客先手配**：二次ドレンパン、スペーサ、ベースカバー

（ⅱ）据付の概要

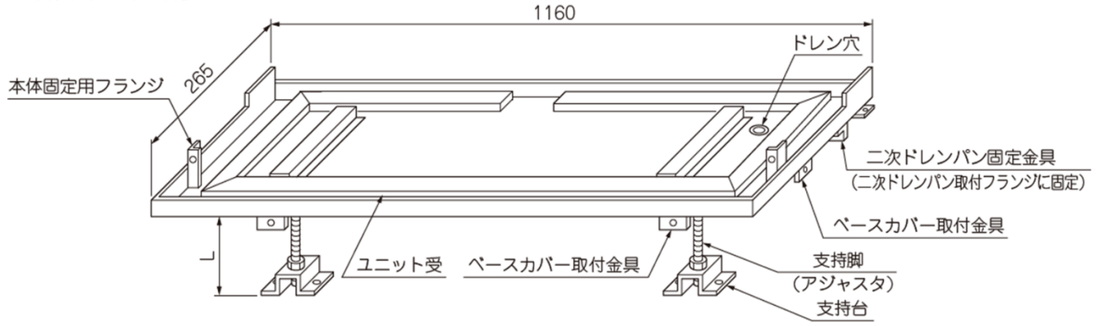
ウォールスルータイプ（窓サッシ形）は二次ドレンパンに本体荷重を掛け，ネオプレンタイトゴム材に本機背面を押し付けて据付けます。



（ⅲ）据付・配線工事

① 二次ドレンパンの取付け

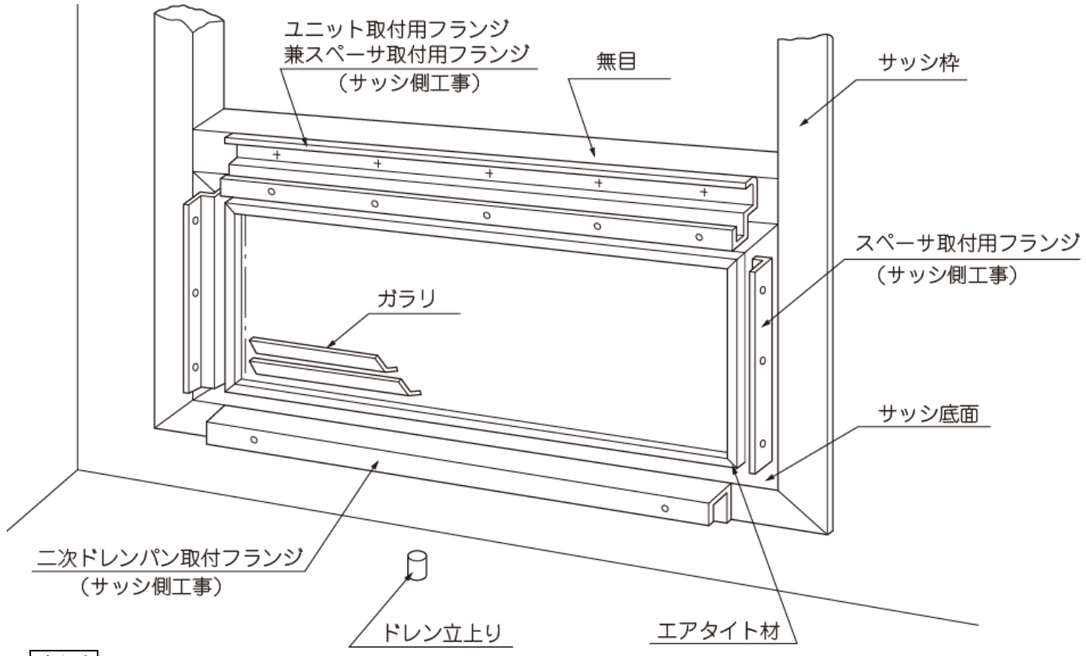
ⓐ **二次ドレンパン寸法**



注(1) L寸法：フロントパネル取付け後の床面との間隔が 80mm 以上となるようにしてください。

ⓑ **取付用フランジ等の確認**

二次ドレンパンを取付ける前に、排水パイプが所定の位置に立ち上がっていること、二次ドレンパン取付フランジ、エアタイト材等がサッシ側工事で確実に取付けられていること及び各種サッシ金具・エアタイト材等の位置・寸法を確認してください。

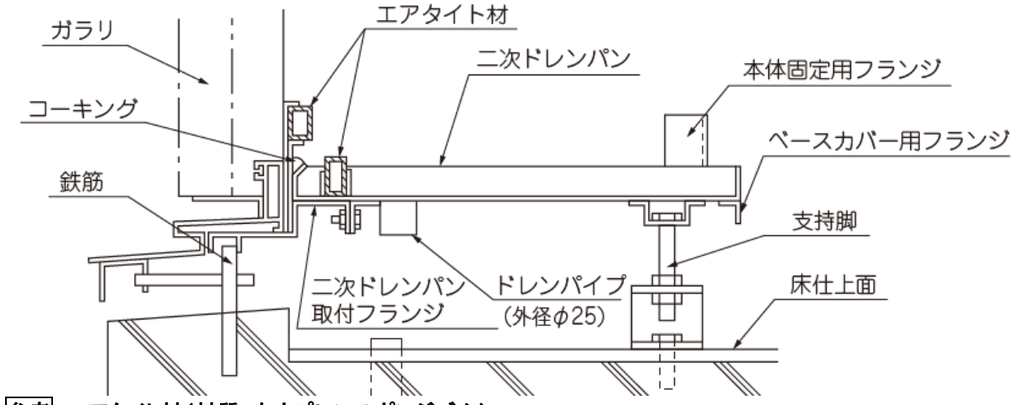


ご注意

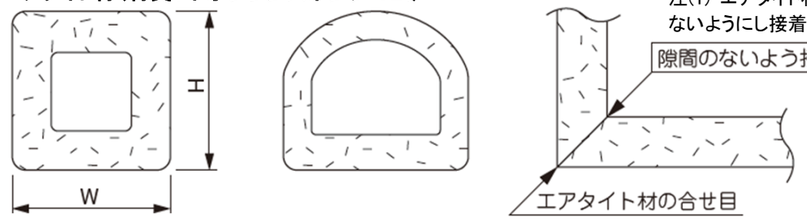
標準工事としては二次ドレンパン取付は空調工事に含まれるのが一般的ですが、二次ドレンパン取付フランジ、ユニット取付用フランジ等の各種サッシ側フランジ及びタイト材の取付けは。サッシ側工事とします。
しかし、現場により異なる工事範囲もあるので事前に建築図面により、確認してください。

ⓒ **二次ドレンパン取付け**

二次ドレンパン取付フランジに二次ドレンパンを乗せてボルト止めし、支持足の高さを調節した後、ダブルナットを締め、確実に固定してください。支持足と床面との固定はホールインアンカーで行います。
次にサッシと二次ドレンパンの隙間をコーキング材でシールしてください。



参考 エアタイト材（材質：ネオプレンスポンジゴム）

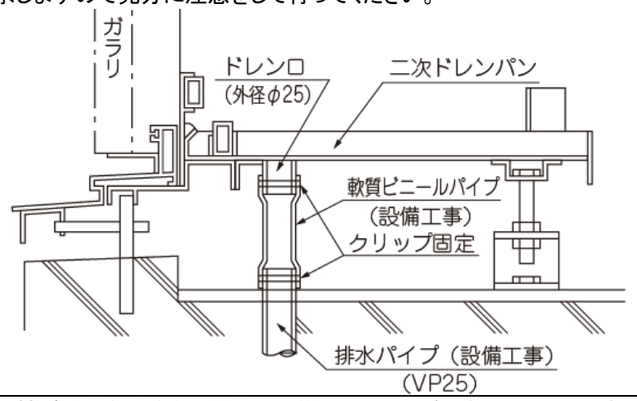


注(1) エアタイト材の合せ目は隙間のないようにし接着してください。

注(1) W：25～35mm　H：18～30mm

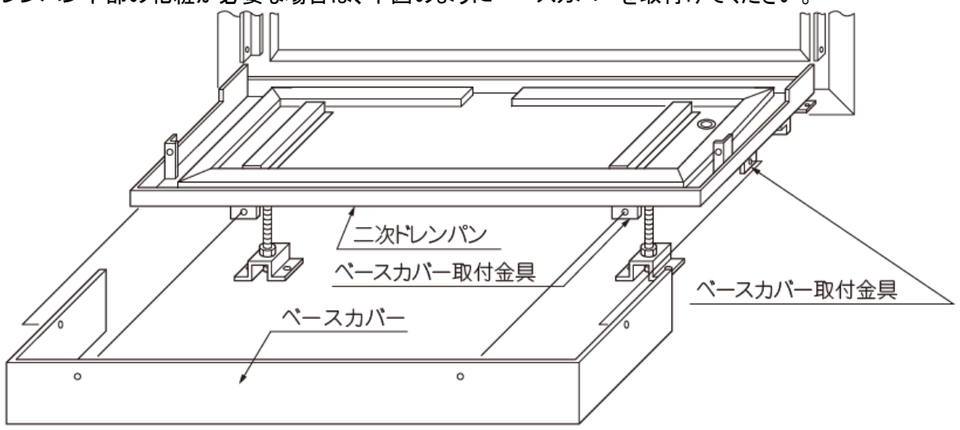
ⓓドレン接続

二次ドレンパン下部のドレン口と排水パイプを軟質ビニールパイプ等で接続します。
接続が不適ですと、漏水しますので充分に注意をして行ってください。



ⓔベースカバー取付け（現地手配）

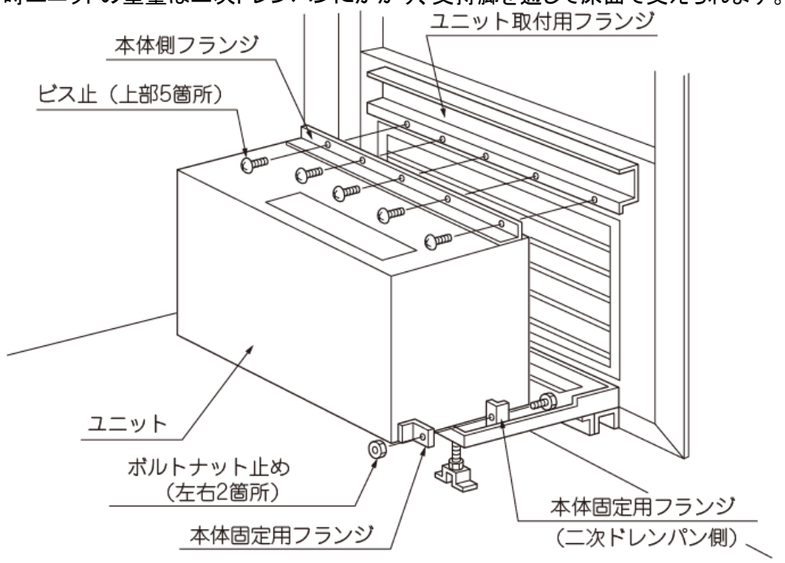
二次ドレンパン下部の化粧が必要な場合は、下図のようにベースカバーを取付けてください。



② **ユニット・フロントパネルの取付け**

ⓐ本体の取付け

ユニットを二次ドレンパンに乗せて、サッシガラリ側に押し付け、サッシ上部及び二次ドレンパンへ仮止めしてください。（この時ユニットの重量は二次ドレンパンにかかり、支持脚を通して床面で支えられます。）

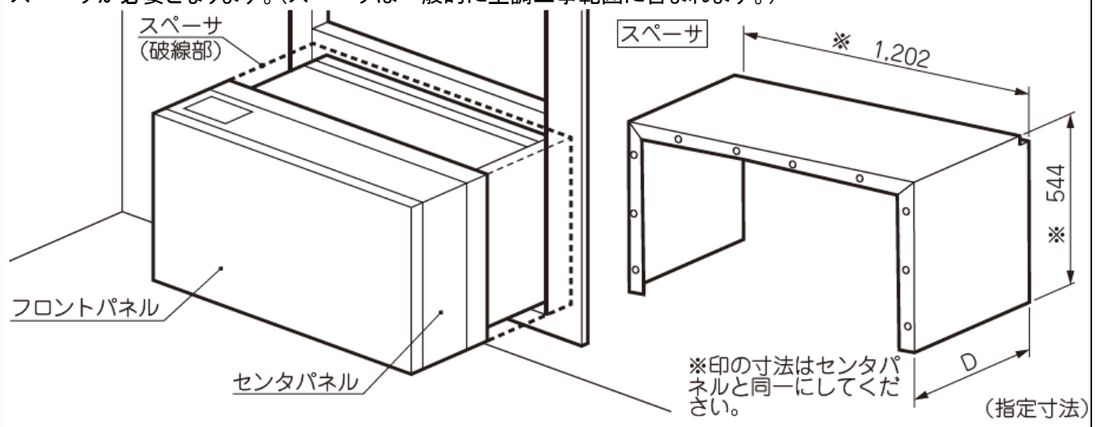


ご注意

ガラリ周囲部分のエアタイト材とユニットが完全に密着することを確認しながら，ボルト締め，ビス止めを行ってください。エアタイト材との密着が不完全ですと、気密性能や水密性能に影響があるため確実に行ってください。

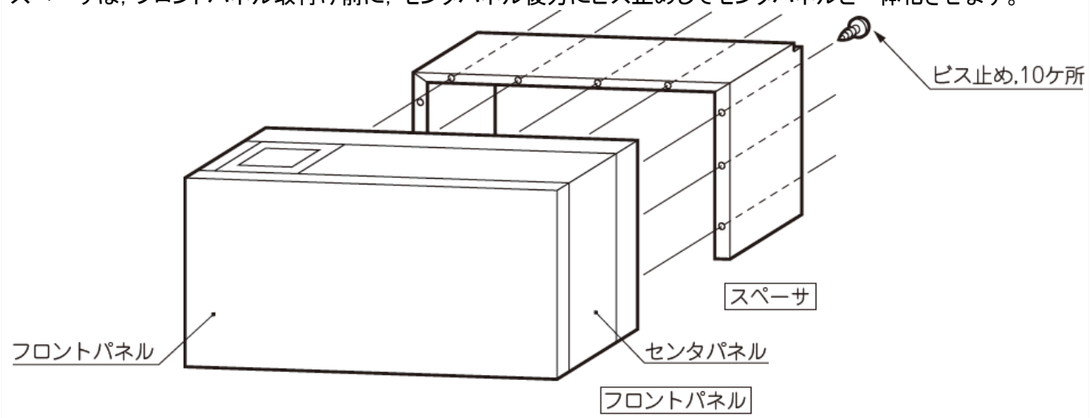
ⓑスペーサ

ウォールスルータイプ（窓サッシ形）据付けの場合、フロントパネル後方から、サッシまでの間の化粧パネルとしてスペーサが必要となります。（スペーサは一般的に空調工事範囲に含まれます。）



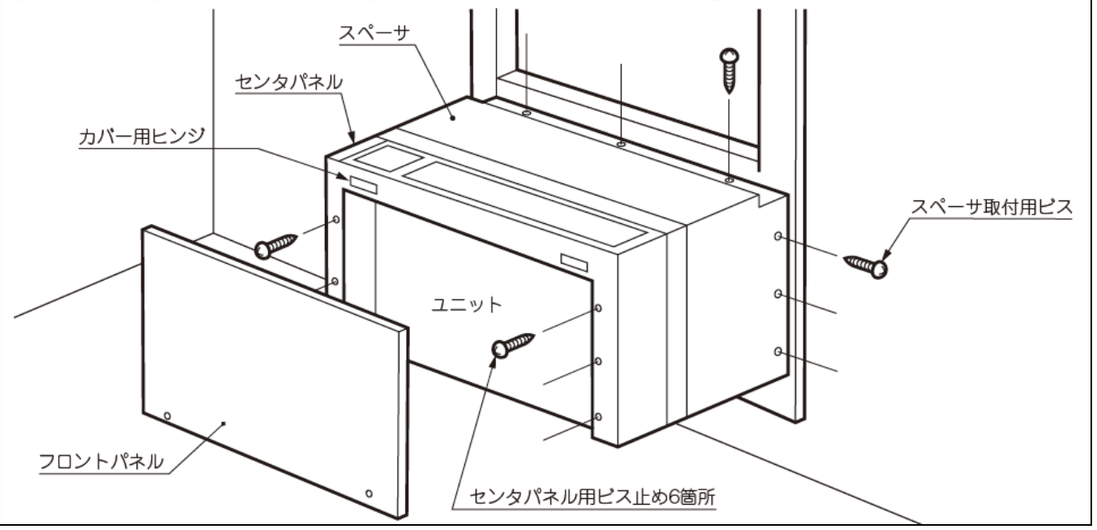
ⓒスペーサ・センタパネル一体化

スペーサは，フロントパネル取付け前に，センタパネル後方にビス止めしてセンタパネルと一体化させます。



ⓓ取付け

フロントパネルの取付けは、一旦フロントパネル、センタパネルを分離し、一体化したセンタパネルとスペーサをユニットにビス止めし、その後、フロントパネルを固定します。
スペーサのサッシ側への固定は必要に応じ、スペーサ取付用フランジ（59 ページ・ⓑ項をご覧ください。）へビス止めしてください。
注(1) リモコンをセンタパネルに設置する場合は，前もってリモコンを取付けておいてください。

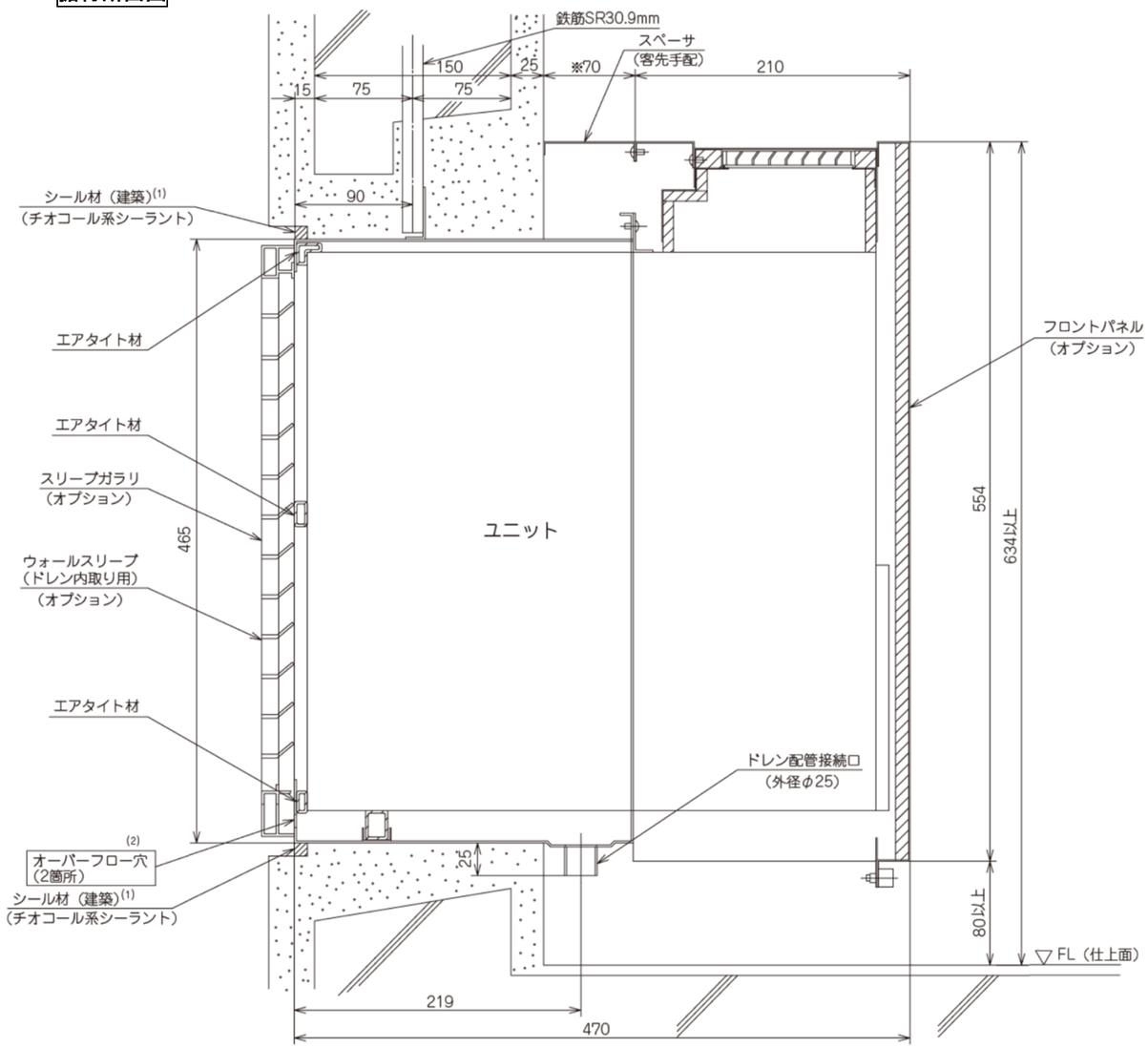


(4) 据付例(参考)

(a) ウォールスルータイプ(壁埋込形)

(ｉ) RC、SRC 構造の建物の場合

据付断面図



注(1) シール材はスリーブと建物(構造体)間をシールしてください。

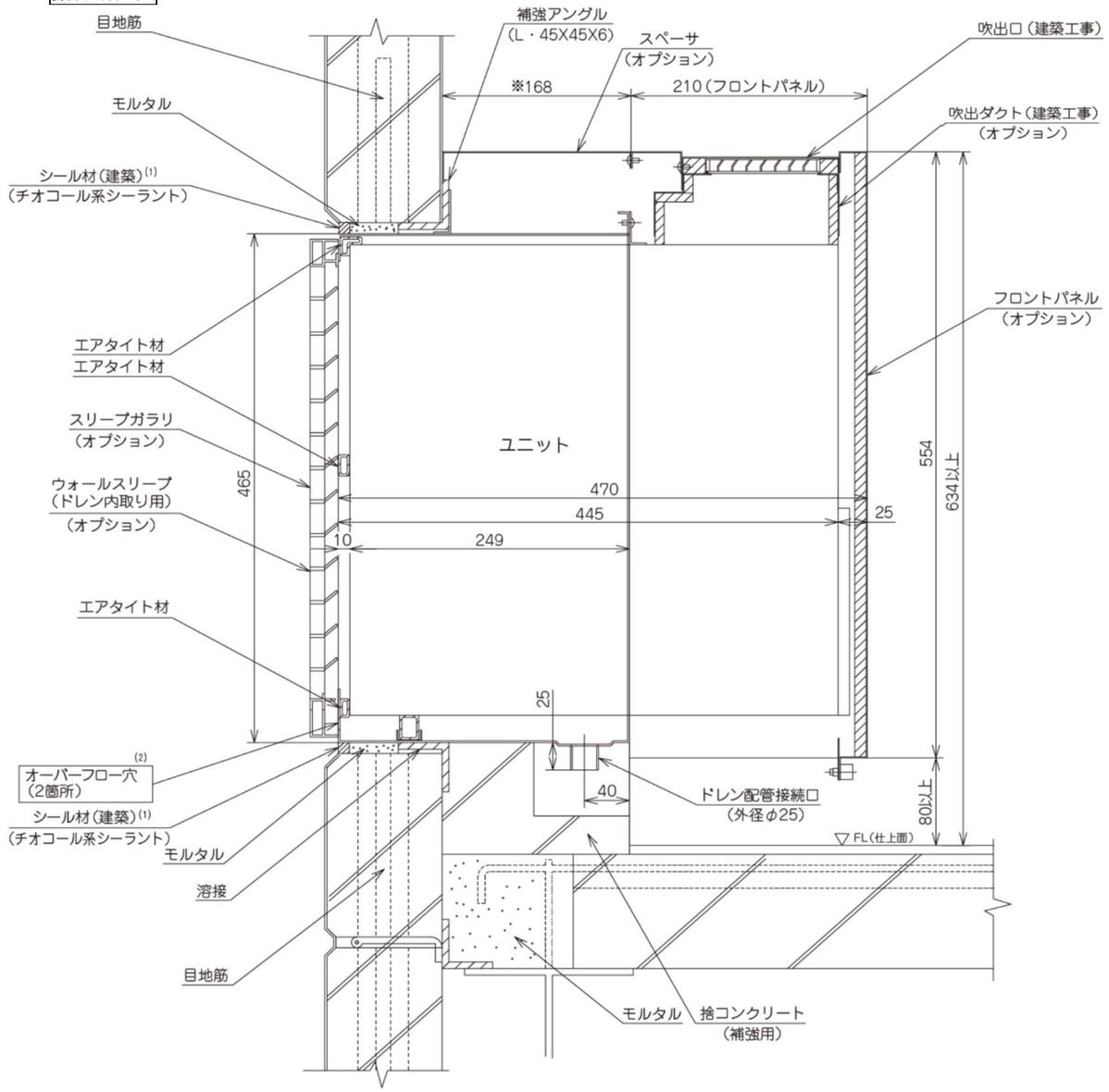
(2) ウォールスリーブ背面下部にオーバーフロー穴(2 箇所)があります。絶対塞がない納まりとしてください。

(3) ドレン配管(建物側)及びドレン配管とドレン配管接続口(ユニット側)間の継手は設備工事範囲です。

(4) 建物及び※印の寸法は現場により異なります。

(ⅱ) ALC 構造の建物の場合

据付断面図



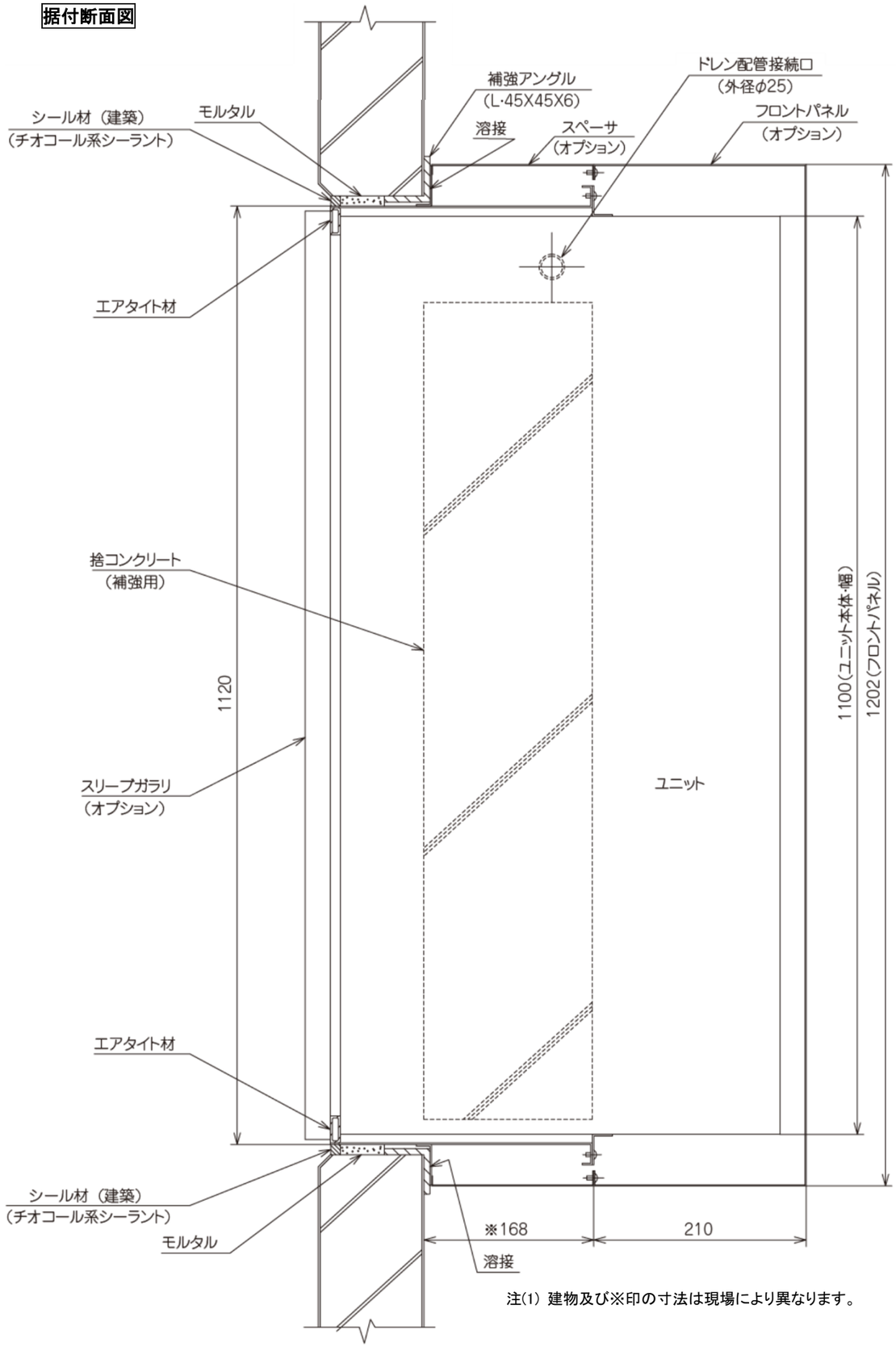
注(1) シール材はスリーブと建物(構造体)間をシールしてください。

(2) ウォールスリーブ背面下部にオーバーフロー穴(2 箇所)があります。絶対塞がない納まりとしてください。

(3) ドレン配管(建物側)及びドレン配管とドレン配管接続口(ユニット側)間の継手は設備工事範囲です。

(4) 建物及び※印の寸法は現場により異なります。

据付断面図

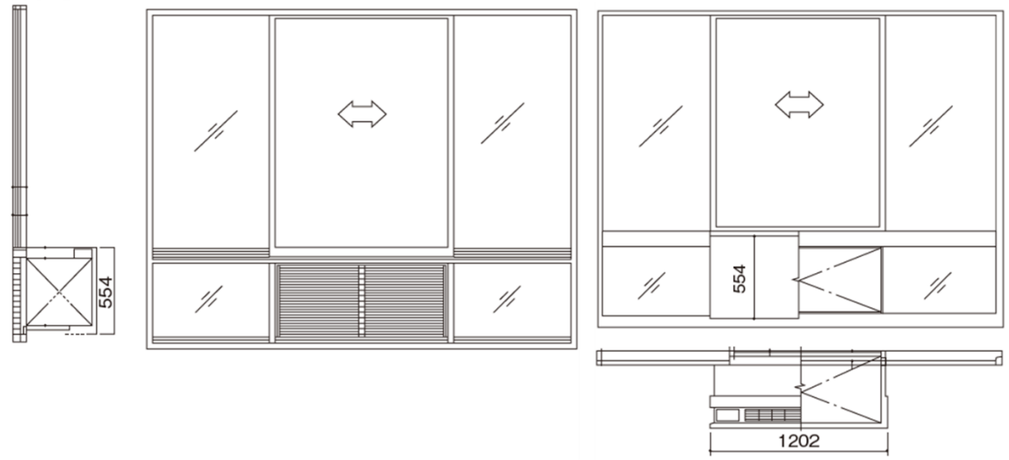


注(1) 建物及び※印の寸法は現場により異なります。

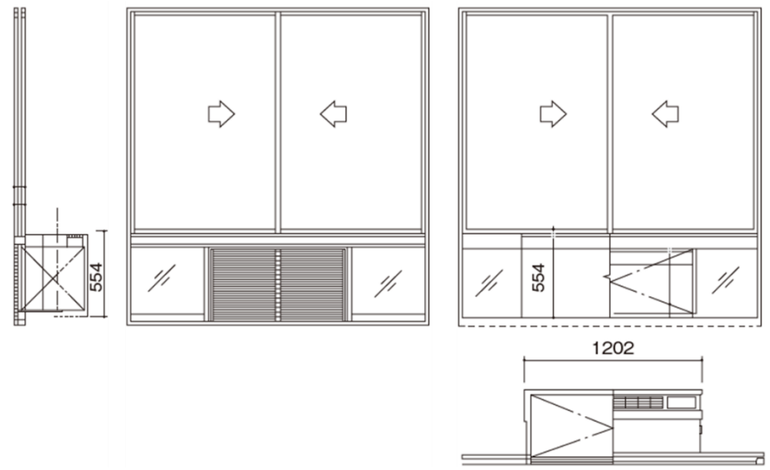
(b) ウォールスルータイプ（窓サッシ形）

（ｉ）サッシの種類別据付例

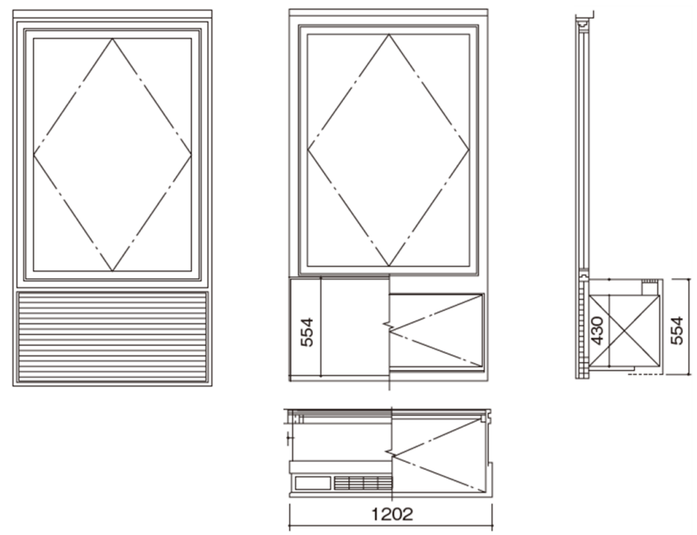
① 片引窓



② 引違い窓



③ 竪軸回転窓

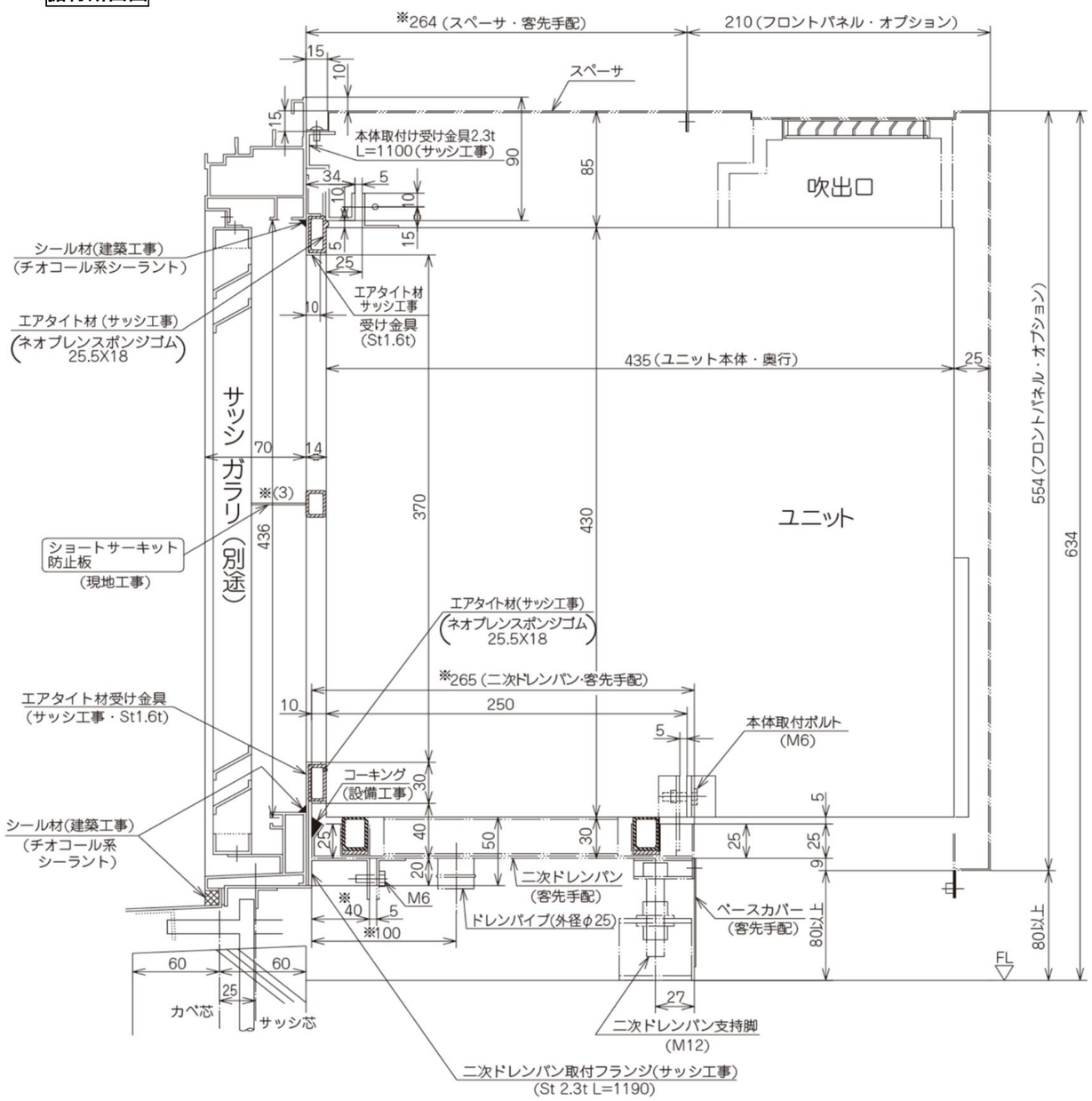


RTC012A105

（ⅱ）据付例

① ガラリ方式

据付断面図

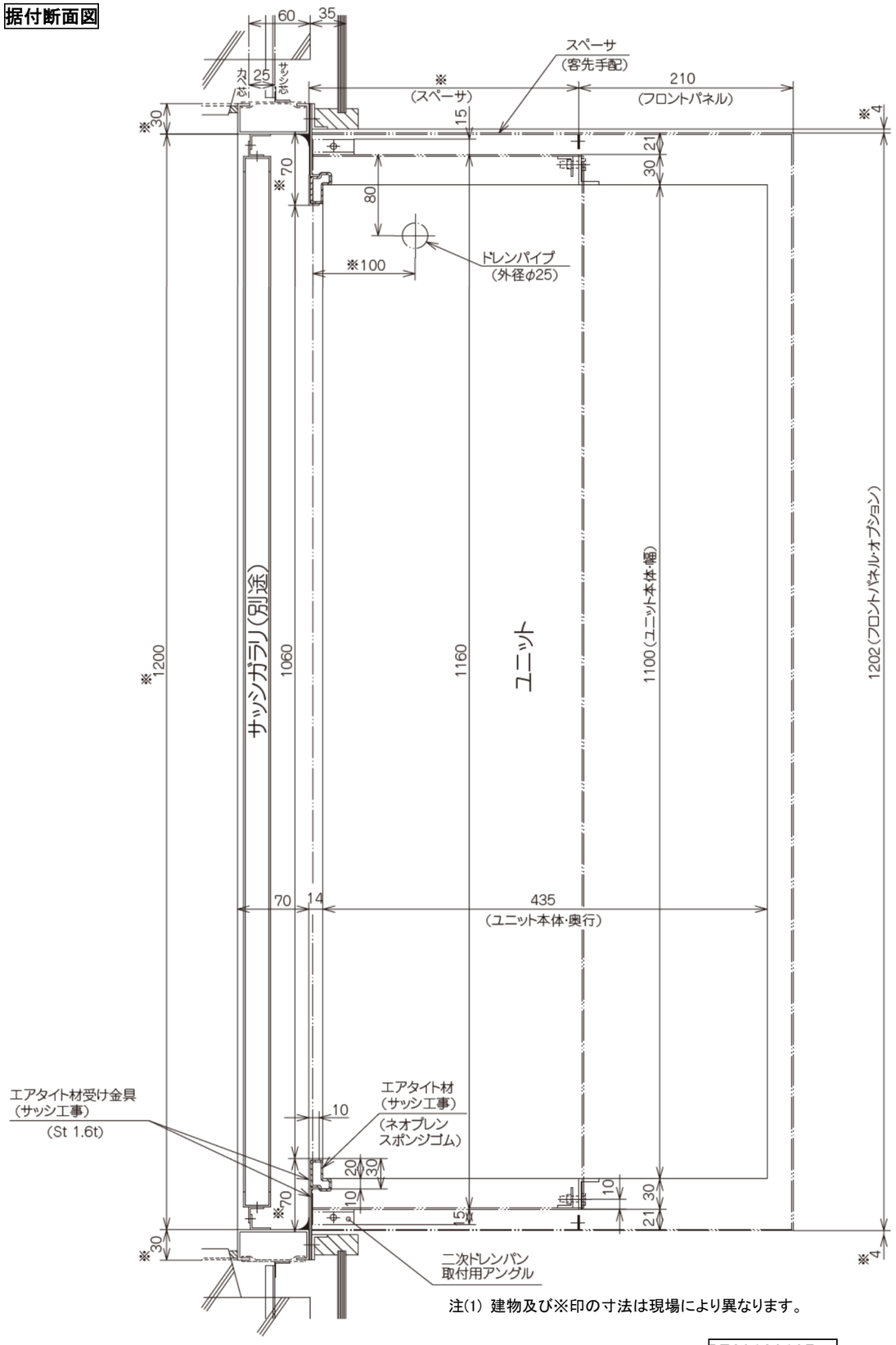


注(1) 建物及び※印の寸法(スペーサ,二次ドレンパン,ドレン位置) は各現場により異なります。

(2) エアタイト材：サッシ～ユニット間の隙間をエアタイト材（ネオプレンスポンジゴム）を 5～7mm 程度押しつぶし 14mm とします。

(3) ※印寸法が 20mm 以上の場合はショートサーキット防止板（フランジをユニット本体に穴をあけ M4 ねじ X4 本で取付ける等による）を設けてください。

据付断面図

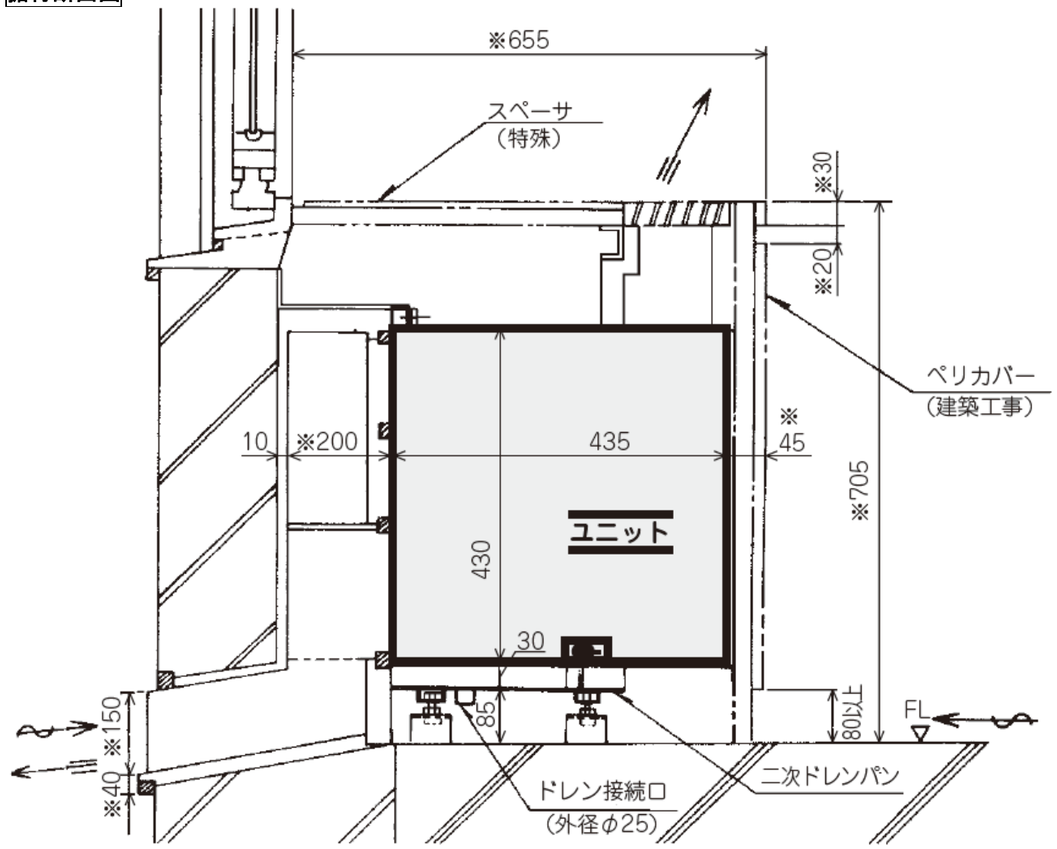


注(1) 建物及び※印の寸法は現場により異なります。

RTC012A105

② ダクト方式

据付断面図



注(1) 建物及び※印の寸法は現場により異なります。

3. ペリカバー（フロントパネル）設計上の注意点

現地でペリカバー（フロントパネル）を製作する場合は下記の注意点を織り込んでください。

設計上の注意点

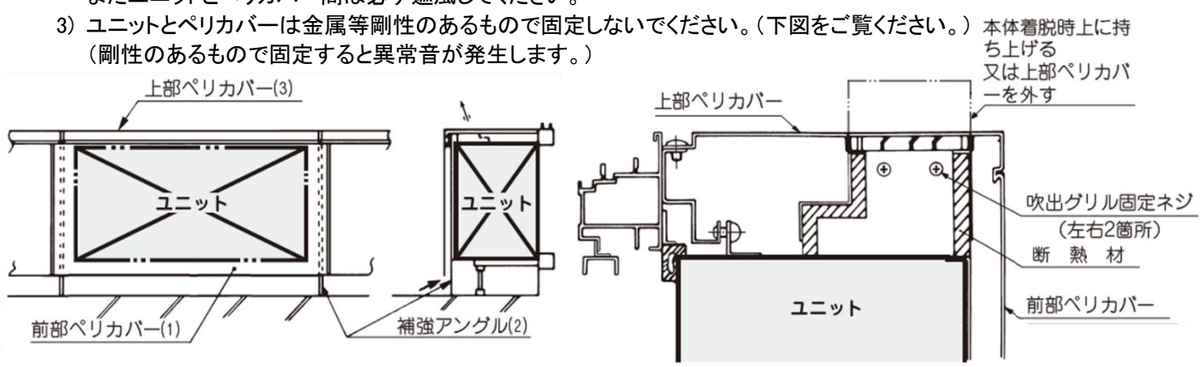
1）吹出面積は 0.088m² (1)（吹出口・レジスタの開口率は含まない）としてください。

注(1) 吹出口・レジスタの開口率は 0.8 以上としてください。

〔有効吹出口面積≧0.0704m²（0.088m²×0.8=0.0704m²）〕

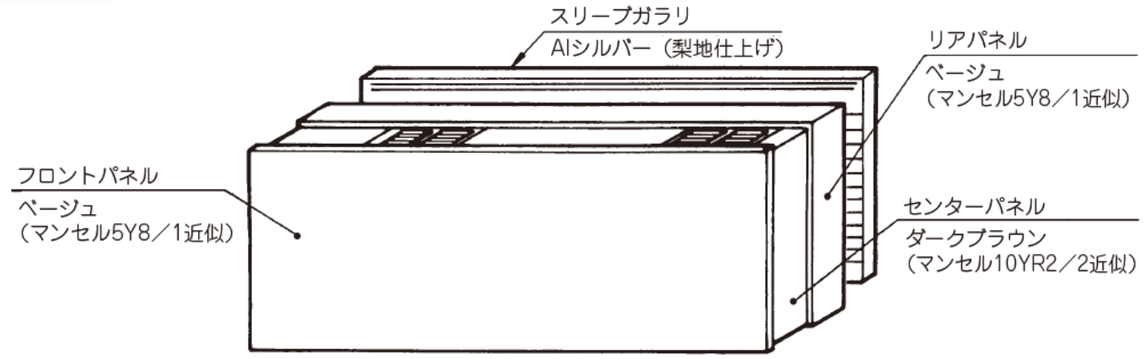
2）ユニットとペリカバーを継ぐ吹出ダクトは必ず断熱してください。（ダクト表面への結露防止）
またユニットとペリカバー間は必ず遮風してください。

3）ユニットとペリカバーは金属等剛性のあるもので固定しないでください。（下図をご覧ください。）
（剛性のあるもので固定すると異常音が発生します。）



注(1) ペリカバーはユニットの取外し，フィルタ取出しのできるよう容易に着脱できる構造としてください。
(2) 補強アングルは本体に取付けないでください。
(3) 補強アングルはユニットの取付け，取外しに支障のない位置に取付けてください。

4. 塗 装 色



5. 電気配線工事

(1) 電気配線

- ●電気工事は必ず電気工事士の資格を得た人が行ってください。
- ●電源は専用の分岐回路からとってください。また D 種接地工事を必ず行ってください。
- ●接続配線は電気設備技術基準にしたがって行ってください。
- ●電源太さ，配線用しゃ断器の選定については、下表をご覧ください。
- ●電源線・アース線およびリモコン線の接続は、電装箱の蓋を取外し、端子台の番号に合せて接続してください。
- ●端子台の端子には 3 本以上の配線を接続しないでください。また接続には必ず丸形圧着端子を使用してください。
- ●衝撃波不動作形漏電しゃ断器の取付けが必要です。漏電しゃ断器が取付けられていないと、感電や火災の原因になることがあります。
- ●この機器は、機能的目的だけのために接地接続を内蔵しています。

電気配線仕様

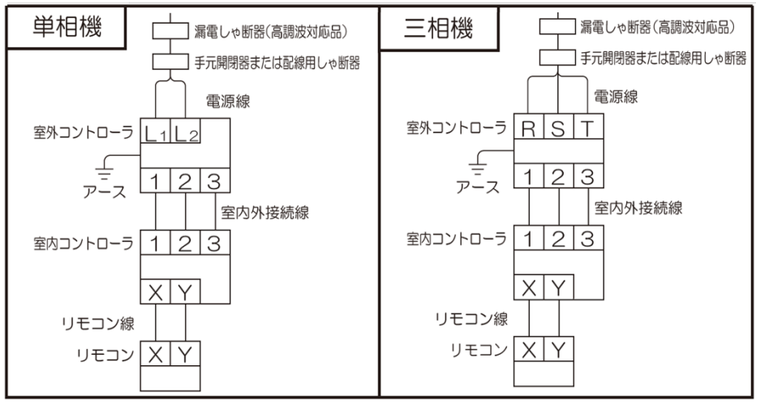
単相機 端子台 ： (L1) (L2) 200V

三相機 端子台 ： (R) (S) (T) 200V

項目 / 形式		電源電線の太さ（φmm）	電源容量（kVA）	漏電しゃ断器定格容量	手元開閉器		配線用しゃ断器定格電流(A)	アース線	
					開閉器容量(A)	B種ヒーズ(A)		最小太さ（φmm）	ネジ呼び
WTP254HK,HKF	単相	φ2.0	1.8	20A,30mA 0.1sec以下	30	20	20	φ1.6	M5
WTP254HKU,HKUF	単相	φ2.0	1.8	20A,30mA 0.1sec以下	30	20	20	φ1.6	M5
WTP364HK,HKF	単相	φ2.0	2.4	20A,30mA 0.1sec以下	30	20	20	φ1.6	M5
WTP364HKU,HKUF	単相	φ2.0	2.4	20A,30mA 0.1sec以下	30	20	20	φ1.6	M5
WTP254H,HF	三相	φ1.6	2.0	15A,20mA 0.1sec以下	15	15	15	φ1.6	M5
WTP254HU,HUF	三相	φ1.6	2.0	15A,20mA 0.1sec以下	15	15	15	φ1.6	M5
WTP364H,HF	三相	φ1.6	2.6	15A,20mA 0.1sec以下	15	15	15	φ1.6	M5
WTP364HU,HUF	三相	φ1.6	2.6	15A,20mA 0.1sec以下	15	15	15	φ1.6	M5

注(1) 表中の配線太さは配線こう長 20m，電圧降下 2%以内とした場合を示します。

電気配線接続要領



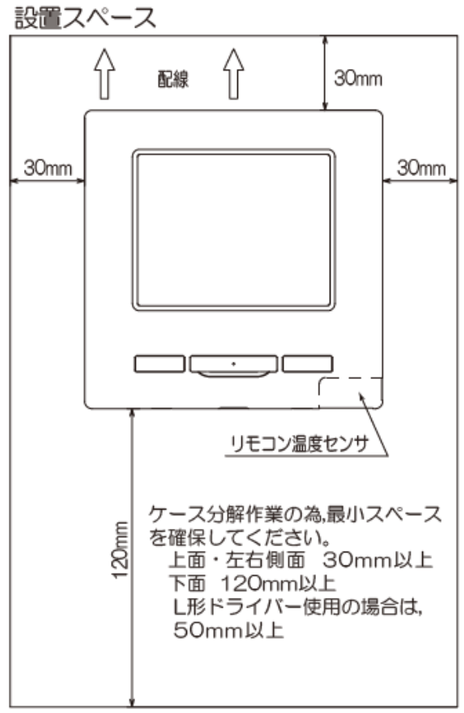
(2) リモートコントローラの取付

(a) RC－DX シリーズリモコンの場合

（ｉ）据付場所

据付方式 「スイッチボックスを使用」、「壁面に直接据付」
配線方向 「背面」、「上面中央」、「上面左」
据付場所選定の注意事項

1）据付面が平らで強度を有すること。
　リモコンケースが変形しないこと。
2）リモコンが正確な室内温度を検知できる所
　リモコンの温度センサーを使用して室内温度を検知する場合は、必ず守ってください。
　・リモコンは、部屋の平均的な温度を検知できる場所に設置してください。
　・リモコンは、熱源の影響を受けない場所に設置してください。
　・リモコンは、ドアの開閉による室外空気の影響を受けない場所に設置してください。
3）直射日光やエアコンから吹き出した風が直接あたる場所
4）壁面温度と室内空気温度の差がでない場所
5）ラクリーナパネルを採用される場合は、グリルの昇降が確認しやすい場所。

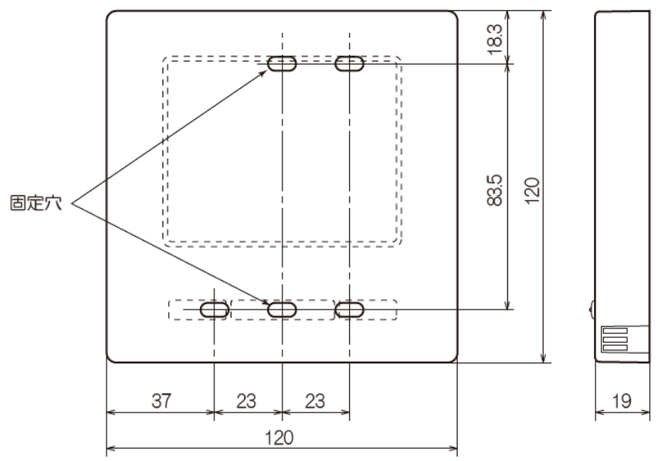


お願い

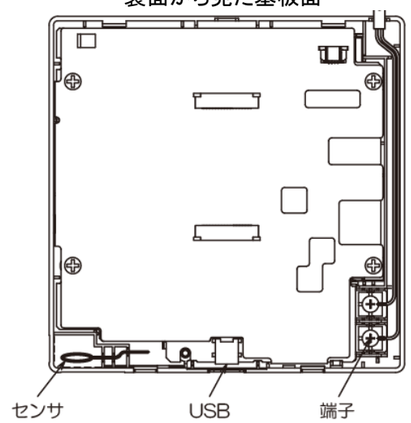
・リモコン設置壁面付近の温度と実際の室温と差が大きい場所に据付ないでください。検知した室温と実際の室温に差がでることでトラブルの原因になります。
リモコンの検知温度補正は、検知温度全体を補正するため差を解消することはできません。
・直射日光のあたる場所、周囲温度が40℃以上または0℃以下になる場所にリモコンを据付けないこと。
日焼け・変形・誤作動・故障の原因になります。

（ii）据付・配線工事

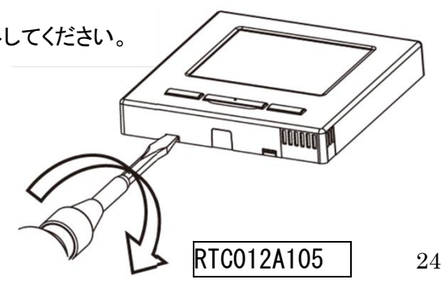
正面から見た取り付け寸法



裏面から見た基板面



1）リモコンの上下ケースの分離
　・リモコン下面の凹部にマイナスドライバ等を挿し込んで軽くねじって外してください。
　　注(1) 取り外した上ケースは、水分・ゴミが付かない様に注意してください。
2）リモコン端子X，Yと室内コントローラの端子X，Yを接続してください。
　配線X，Yの極性はありません。

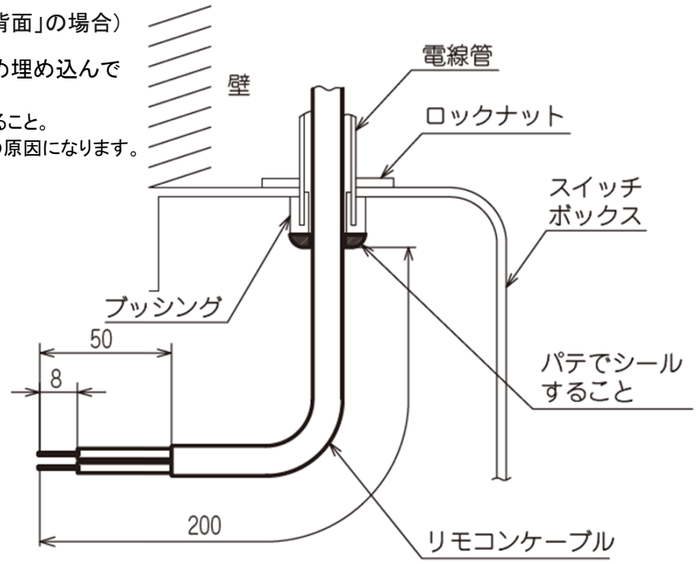


RTC012A105

スイッチボックスを使用する場合 （配線方向「背面」の場合）

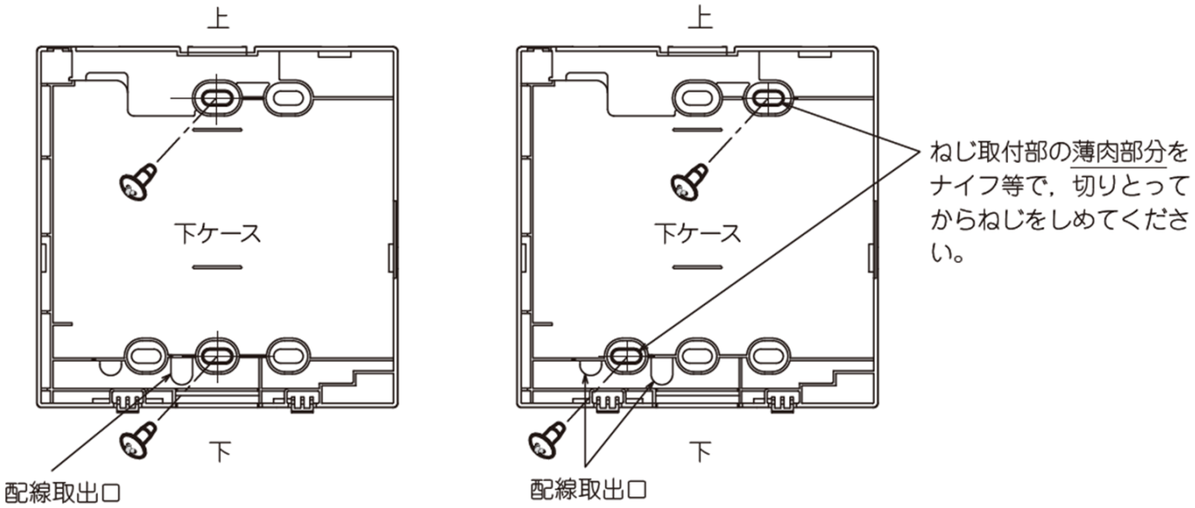
1）スイッチボックスとリモコンコードをあらかじめ埋め込んでおきます。

注(1) リモコンケーブル引込口をパテでシールすること。
露・虫などが浸入すると、感電・火災・故障の原因になります。



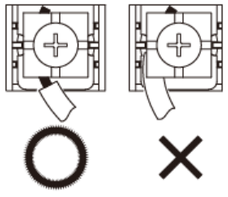
2）下ケースに配線を通した後，スイッチボックスに2箇所固定してください。

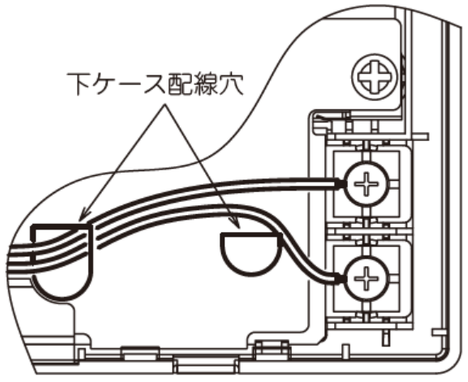
●1個用スイッチボックスの場合　　●2個用スイッチボックスの場合



3）斜め2箇所で固定の場合は、ケース薄肉部をきり欠いてください。
4）リモコン上ケース端子ねじを巻く様に配線を固定してください。
5）リモコン配線が噛みこまないように、上ケースを取付けてください。

注(1) 配線接続時のご注意
リモコンケース内を通る配線は 0.5mm² 以下とし、シースをかみこまない様に接続してください。
配線接続は、手締め(0.7N・m 以下)で行ってください。
電動ドライバを使用すると、故障や変形の原因になることがあります。

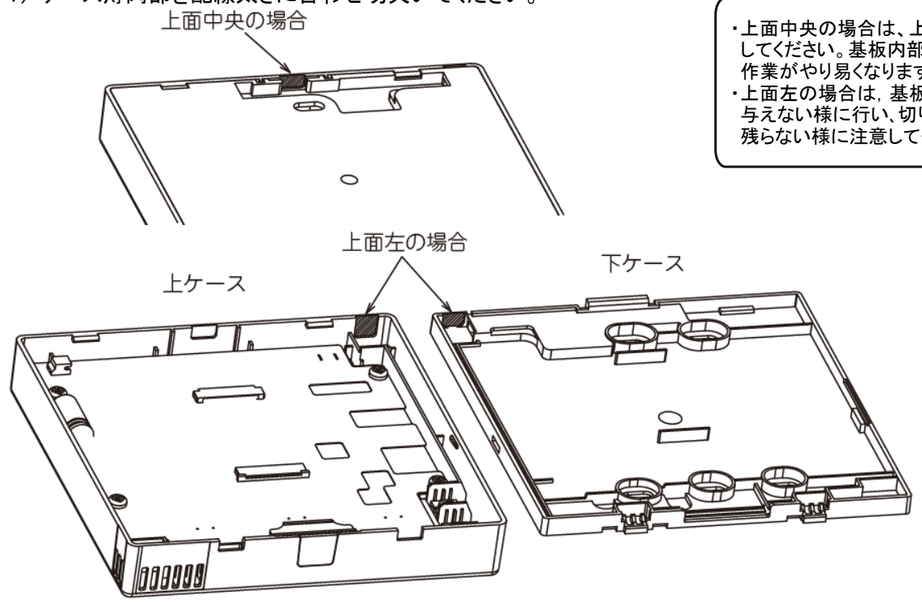




スイッチボックスを使用しない場合 （配線取出「上面中央」「上面左」の場合）

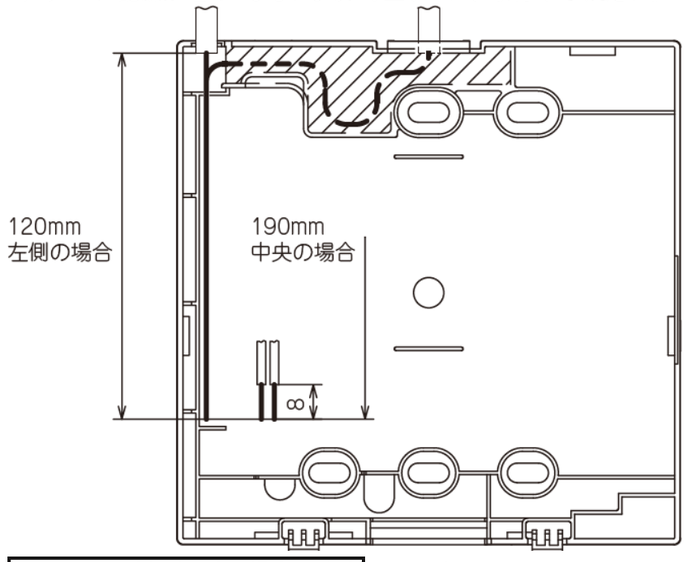
1）ケース薄肉部を配線太さに合わせ切欠いてください。

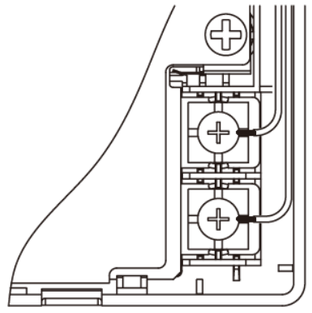
・上面中央の場合は、上下ケース分解前に実施してください。基板内部への影響が少なく作業がやり易くなります。
・上面左の場合は，基板内部への影響を与えない様に行い、切り取った破片が内部に残らない様に注意してください。



注(1) 切欠き部が大きいと，水分・ホコリ・虫の浸入の原因になります。必要に応じてパテ等で封止してください。

2）リモコン下ケースを付属の木ねじ2本で平らな面に固定してください。
3）上面中央の場合はケース背面に配線を通してください。(斜線部分)
4）リモコン上ケース端子ねじを巻く様に配線を固定してください。
5）リモコン配線が噛みこまないように、上ケースを取付けてください。





リモコンコードを延長する場合の注意　最大総延長 600m

●リモコンコードは 0.3mm²×2 芯です。
延長距離が 100m を超える場合は、下記サイズに変更してください。但し、リモコンケース内を通る配線は最大 0.5mm² 以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズ変更してください。
配線接続する際は、水分等が浸入しないような処置を行ってください。また、配線の接続は、接触不良のないように確実に行ってください。

100～200m 以内……0.5mm²× 2 芯
300m 以内……0.75mm²× 2 芯
400m 以内……1.25mm²× 2 芯
600m 以内……2.0mm²× 2 芯

RTC012A105

(a) RC－D4G リモコンの場合

（ｉ）取付場所の選定

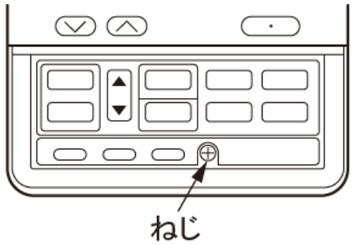
リモコンを下記の場所に設置しないでください。(リモコンの故障や変形の原因になることがあります)

○直射日光の当たる場所　　○発熱器具の近く
○湿気の多い所・水の掛かる所　　○取付面が発熱・結露する場所
○油の飛沫や蒸気が直接触れる場所　　○取付面に凹凸がある所

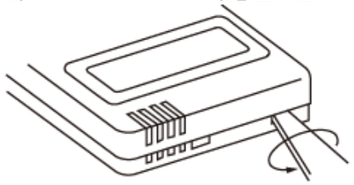
（ii）取付要領

1）露出取付の場合

a) リモコンの蓋を開け、スイッチ下部のねじを必ず外してください。

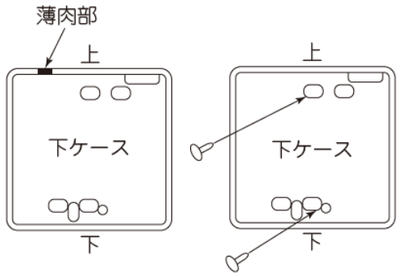


b) リモコンの上ケースをはずしてください。
●リモコン上部の凹部にマイナスドライバ等を差し込んで軽くねじると、容易にはずれます。

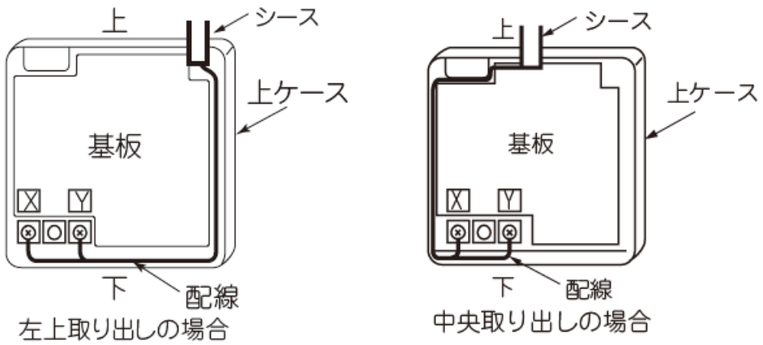


c) リモコンコードの取出し方向は、上部左上または、中央から可能です。リモコン下ケースの上方の薄肉部をニッパー・ナイフ等で切り取った後、ヤスリ等でバリを取ってください。

d) リモコンの下ケースを付属の木ねじ 2 本で平らな壁に取り付けます。

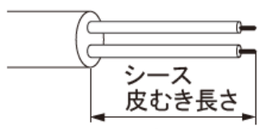


e) リモコンコードを端子台に接続してください。リモコンの端子(X,Y) と室内コントローラの端子(X,Y)を接続してください。(X,Y の極性はありません)
取出し方向によって、配線経路は下図の通りとなります。



●リモコン内部のリモコンコードは、0.3mm²(推奨)～最大 0.5mm² 以下としてください。また、リモコンケース内を通る部分はシースを皮むきしてください。
各配線の皮むき長さは、下記の通りです。

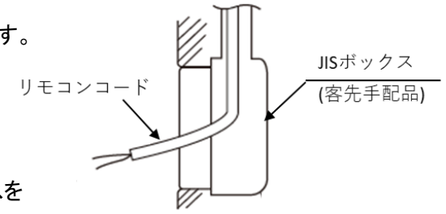
左上取り出しの場合	中央取り出しの場合
X 配線:215mm	X 配線:170mm
Y 配線:195mm	Y 配線:190mm



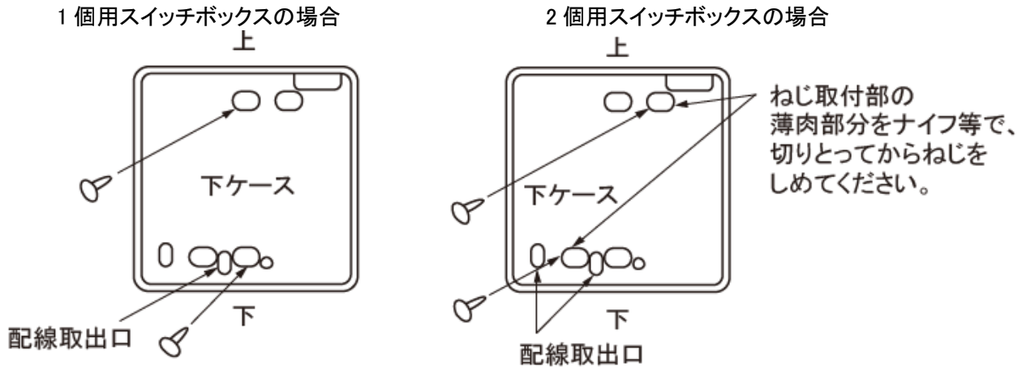
f) リモコンコードが噛みこまないように、上ケースを元通り取付け、外したねじで固定してください。
g) 露出取付けの場合は、リモコンコードがたるまないようにコードクランプ等で壁面に固定します。

2）埋込取付の場合

a) JIS ボックスとリモコンコードをあらかじめ埋め込んでおきます。
[使用可能な JIS ボックス]
JIS C 8340 1 個用スイッチボックス
2個用スイッチボックス

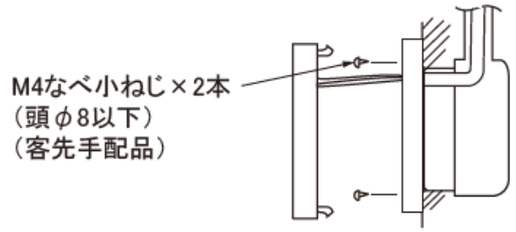


b) M4 ねじ 2 本(推奨長さ 12 ～ 16mm)を用意して、下ケースを JIS ボックスに取り付けてください。



c) リモコンコードを端子台に接続してください。リモコンの端子(X, Y)と室内コントローラの端子(X, Y) を接続してください。(X, Y の極性はありません)
取出し方向およびリモコン内部配線については、露出取付の項をご覧ください。

d) リモコンコードが噛みこまないように、上ケースを元通り取付け、外したねじで固定してください。



リモコンコードを延長する場合の注意　最大総延長 600m

●リモコンコードは 0.3mm²×2 心です。
延長距離が 100m を超える場合は、下記サイズに変更してください。但し、リモコンケース内を通る配線は最大 0.5mm² 以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズ変更してください。
配線接続する際は、水分等が浸入しないような処置を行ってください。また、配線の接続は、接触不良のないように確実に行ってください。

100～200m 以内……0.5mm²× 2 心
300m 以内……0.75mm²× 2 心
400m 以内……1.25mm²× 2 心
600m 以内……2.0mm²× 2 心

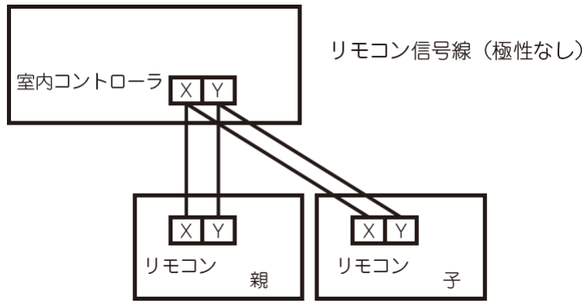
(3) リモコン配線接続要領

(a) 複数リモコン使用時の親子設定

a) ユニット 1 台(または 1 グループ)に対して最大 2 個までのリモコンを接続できます。(後操作優先で運転します。)

注(1) 配線接続時のご注意

b) 子リモコンのリモコン信号線(2 心)は室内コントローラから取る方法と親リモコンから渡り配線する方法があります。



ｉ) RC-DX シリーズリモコンの場合

①電源投入初期設定時にリモコンの表示に沿って親子リモコンの設定を行います。

注(1) 子リモコンに設定された場合は, TOP 画面の表示部に“S”表示します。

②リモコンの親子設定を変更する場合に操作します。

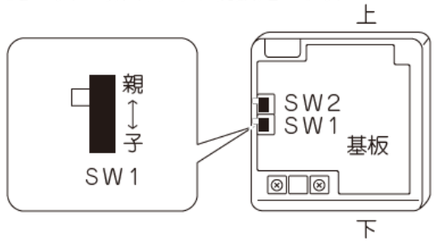
TOP 画面より →「メニュー」 → 「次ページ」 → 「リモコン設定」 → 「メニュー画面＃3」より → 「サービスパスワード」入力 → 「セット」 → 「リモコン親子設定」 を選択します。

注(1) 複数リモコン使用時, 親子設定を変更(親→子)するともう1台も変更(子→親)されます。

ii) RC-D4G リモコンの場合

子リモコン切換スイッチSW1を子に設定してください。(工場出荷時は親設定です。)

スイッチ	設定	機能の内容
SW1	親	親リモコン
	子	子リモコン

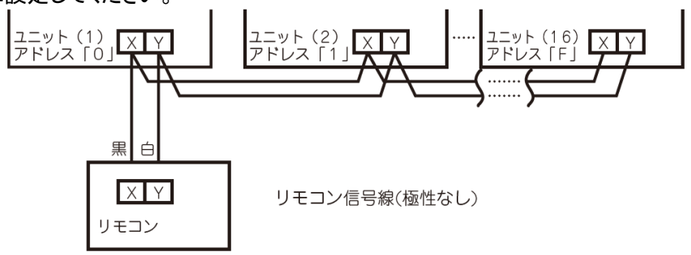


(b) 1 リモコンによる複数台ユニット制御

●ユニット最大 16 台まで可能です。

a) 各ユニット間を 2 芯のリモコン線にて渡り配線してください。延長リモコン線については、〔リモコンコードを延長する場合の注意〕をご覧ください。

b) 室内コントローラ制御基板上のロータリースイッチ SW2 により、リモコン通信アドレスを重複しないよう「0」～「F」に設定してください。



c) 電源投入後、リモコンにより接続されているユニットアドレスがリモコンに表示されることを必ず確認してください。

ｉ) RC-DX シリーズリモコンの場合

TOP 画面より →「メニュー」 → 「次ページ」 → 「メニュー画面＃4」より → 「サービス・メンテナンス」 → 「サービスパスワード」入力 → 「エアコン No.表示」を選択します。

注(1) ユニット選択画面には、8 台まで表示します。9 台以上接続している場合は、次ページ ボタンをタッチしてください。9 台目以降のユニットが表示されます。

ii) RC-D4G リモコンの場合

エアコン No. ボタンを押すとユニットアドレスが表示されます。その後 ▲ ▼ を押すと最若号機から順に表示されます。

(4) 試運転

(a) 室外コントローラからの試運転

1) 現地設定スイッチ SW5-3, 4 により試運転が可能です。

①SW5-3 を ON することで圧縮機が運転します。

②SW5-4 が OFF:冷房運転、 SW5-4 が ON:暖房運転

注(1) 必ず試運転終了後は、SW5-3 を OFF にしてください。

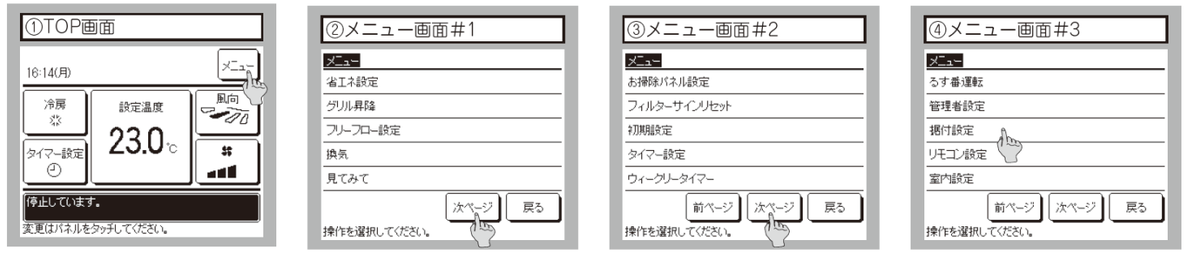
(b) リモコンからの試運転

(ｉ) 冷房試運転操作

1) RC-DX シリーズ リモコンの場合

a) 冷房試運転の開始

① TOP 画面の「メニュー」より → 「次ページ」 → 「メニュー画面#3」 より「据付設定」を選択します。



② 「据付設定メニュー#1」画面から「試運転」を選択し、サービスパスワードを入力します。

「試運転」画面から「冷房試運転」を選択します。

「冷房試運転」画面から 開始 ボタンをタッチしてください。冷房試運転を開始します。

b) 冷房試運転の解除

下記のいづれかの操作が行われたとき、冷房試運転は解除され「冷房試運転中」の表示は消灯します。

① 運転／停止 スイッチが押されたとき。

② 温度設定が変更されたとき。

③ 冷房以外のモードに変えたとき。

④ 冷房試運転開始より、30 分経過したとき。

2) RC-D4G リモコンの場合

リモコンを次の手順で操作してください。

a) 冷房試運転の開始

① 運転／停止 ボタンを押して、運転します。

② 運転切換 ボタンにより、「冷房」を選択します。

③ 試運転 ボタンを 3 秒以上押します。表示が、「冷房試運転▼」となります。

④ 「冷房試運転 ▼」の表示で、セット ボタンを押すと、冷房試運転を開始します。表示は、「冷房試運転」となります。

b) 冷房試運転の解除

下記のいづれかの操作が行われたとき、冷房試運転は解除され「冷房試運転」の表示は消灯します。

① 運転／停止 スイッチが押されたとき。

② 温度設定∧ボタンが押されたとき。

③ 運転切換 ボタンにより冷房以外のモードに変えたとき。

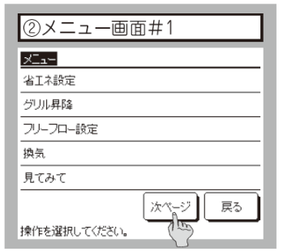
④ 冷房試運転開始より、30 分経過したとき。

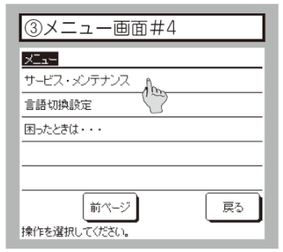
（ⅱ）運転データの確認方法

リモコン操作により、運転データの確認ができます。

1）RC-DX シリーズ リモコンの場合

① TOP 画面の「メニュー」より → 「次ページ」 → 「メニュー画面#4」 より「サービス・メンテナンス」を選択し、サービスパスワードを入力します。



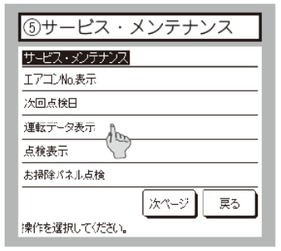


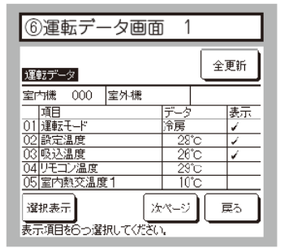
② 「サービス・メンテナンス」画面より「運転データ表示」を選択すると、運転データが表示されます。

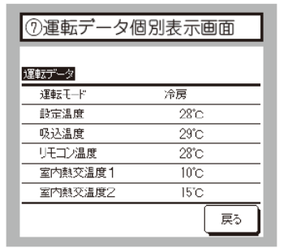
・運転データ画面の切換は，「次ページ」または「前ページ」のボタンをタッチしてください。
運転データの内容については、下表の運転データ一覧表をご覧ください。

・運転データを更新したい場合は、「全更新」 のボタンをタッチしてください。

・運転データを 6 項目選択して表示可能です。「選択表示」のボタンをタッチ後、運転データを 6 項目を選択してから「全更新」 → 「選択表示」の順にボタンをタッチしてください。「運転データ個別表示画面」が表示されます。







2）RC-D4G リモコンの場合

［操作手順］

① 点検 ボタンを押します。表示が「運転データ表示 ▼」となります。

② 「運転データ表示▼」の表示で、セット ボタンを押します。

③ リモコンに接続されているユニットが 1 台の場合、
「データ確認中」表示となり、（データを読み込む間点滅表示）
その後、運転データの 01 番が表示されます。⑦番へお進みください。

④ リモコンに接続されているユニットが複数台の場合、
接続されているユニット中で、最も小さい室内アドレスが表示されます。
［例］「室内機選択」（1 秒間点灯）「内 000 ▲」（点滅）

⑤ ▲ ▼ ボタンで、表示したい室内アドレス選びます。

⑥ セット により確定します。（室内アドレスが点滅から点灯に変わります。）
「内 001」（選択した室内アドレスを 2 秒間点灯）
↓
「データ確認中」（データを読込む間点滅表示）
その後、運転データの 01 番が表示されます。

⑦ ▲ ▼ ボタンにより、現在の運転データを確認できます。
表示される項目は右記の通りです。
注(1) 機種により該当するデータがないものは、その項目は表示されません。

⑧ ユニットを変更する場合は、エアコン No. ボタンを押すことにより、
ユニット選択表示に戻ります。

⑨ 運転／停止 ボタンを押すと，終了します。

◎ 設定の途中で、リセット ボタンを押すと、一回前の設定画面に戻ります。

注(1) 運転データの確認は、リモコン 2 台でユニットを運転する場合、親リモコンのみ操作可能です（子リモコンからの操作はできません。）

運転データ一覧表

番号	データ項目
01	運転モード
02	設定温度
03	吸込温度
04	リモコンセンサ温度
05	室内熱交温度（ThI-R1）
06	室内熱交温度（ThI-R2）
07	室内熱交温度（ThI-R3）
08	室内ファン速調
09	要求周波数
10	アンサー周波数
11	室内膨張弁開度
12	室内運転積算時間
21	外気温度
22	室外熱交温度（Tho-R1）
23	室外熱交温度（Tho-R2）
24	圧縮機周波数
25	高圧
26	低圧
27	吐出管温度
28	ドーム下温度
29	CT 電流
30	SH 制御値
31	実 SH
32	実 TDSH
33	圧縮機保護ステータス No.
34	室外ファン速調
35	63H1 ON/OFF
36	デフロスト ON/OFF
37	圧縮機運転積算時間
38	室内膨張弁開度（EEVC）
39	室内膨張弁開度（EEVH）